

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）

※「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」を含む

# 美容保健学科シラバス

授業科目	関係法規・制度 Sanitation Laws and Systems						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	川島 進一						
テキスト	『関係法規・制度』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容師の資格は法律により規定され、美容師でなければ美容の業を行うことはできない。このため美容師に必要な法知識を習得する必要がある。この科目では、法制度の概要からわが国の衛生行政について学ぶとともに、美容師法の要求する美容師・美容所についての規定を理解する。また、美容師について必要とされる美容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。						
授業概要	法制度の概要を理解したうえで、わが国の衛生行政のしくみ、美容師法・施行令・施行規則について理解を深めるとともに、美容業に関係する法律・制度について学習する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際					
3~4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観					
5~6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向					
7~8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構					
9~10	美容師法	美容師法の目的と歴史・美容師法の構成					
11~12	用語の定義	美容・美容師・美容所					
13~14	美容師	美容師養成制度・美容師試験・免許と登録					
15~16	美容師	管理美容師・業務に従事する美容師の義務					
17~18	美容所	美容所の開設					
19~20	美容所	美容所開設者が講ずべき衛生措置・美容所以外での業務					
21~22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員					
23~24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・異議申立て					
25~26	罰則	罰則					
27~28	関係法規	生衛法・地域保健法					
29~30	関係法規・まとめ	感染症法・労働基準法・消費者基本法・美容師法の課題					
到達目標	わが国の法制度、衛生行政、美容師法、関係法規を理解することにより、美容師が持つ社会的責任の重さを理解し、さらに顧客に対し責任を持って美容の業を行うという職業意識を育成していく。						
評価方法	1. 期末試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ						
履修上の 注 意	授業への出欠状況および授業中に授業に対する受講態度を重視する。						
参考文献							

授業科目	衛生管理技術 Sanitation Administration						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	菅野 康則						
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容施設では法律によって消毒が義務付けられている。そのため、消毒の意義と消毒法の具体的な手法を知らなくてはならない、この講義では消毒について解説していく予定です。						
授業概要	美容上必要な衛生管理について知識を学習する。						
時間外学習	学生は、シラバスの項目に従って教科書で予習してから講義に臨んで下さい。受講後は、講義時に配布された資料に基づきノートを整理して知識を蓄積するよう努めてください。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	消毒と滅菌の定義	消毒と滅菌の違いについて史実に基づいて解説する。					
3~4							
5~6	消毒の対象となる病原微生物	微生物病の予防には消毒が重要なことを説明する。					
7~8							
9~10	理・美容と消毒法規	法の定めを説明する。					
11~12							
13~14	小テストによる、まとめ						
15~16	小テストの解説						
17~18	理化学的消毒法とその実施法	紫外線、加熱による消毒について					
19~20	化学的消毒法とその実施法	消毒剤を用いた消毒について					
21~22	施術における消毒の実際 (美容施設での消毒)	消毒法の具体的な使用例について					
23~24							
25~26	消毒物件と消毒法の選 択 (消毒薬の希釈)	消毒薬の希釈法と保存法について					
27~28							
29~30	小テストによる、まとめ						
到達目標	美容師国家試験の合格						
評価方法	試験による						
履修上の 注 意	出席率の悪い学生は受験資格を失う						
参考文献							

授業科目	公衆衛生 Public Health						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウエルネスデザイナー認定資格						
担当者	吉村 統、岡田 奈緒子						
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容師は、人の健康に関わる職業であることから衛生管理のプロとして求められる知識・技術を身につける。また顧客との良好な人間関係を築く上で必要な公衆衛生関係の社会常識、特に最新の情勢についての知識を習得する。						
授業概要	公衆衛生の意義、予防衛生、保健衛生、環境衛生、特に美容業務上で必要不可欠な衛生知識などについてテキストに沿って教授すると共に、その時点における社会の動きなどについても教授する。 講義は、パワーポイントを使用して行う。						
時間外学習	パワーポイントの画面上で赤字及びアンダーラインを付したフレーズは必ずノートに転記しておき、時間外に復習する。 テキストの他の頁で講義に関連する部分を示すので、その部分を参照してくること。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	公衆衛生の意義と課題	健康の意義、					
3~4	公衆衛生の発展と歴史	欧米や我が国の公衆衛生にかかる歴史と歴史上の人物					
5~6	予防医学・疫学・母子保健	各種統計から公衆衛生の課題を考える。予防医学の三段階。母子保健					
7~8	成人保健・精神保健	生活習慣病。精神保健行政など。					
9~10	栄養と食物・医療介護制度	栄養素別の健康とのかかわり。介護制度。					
11~12	環境衛生の概要	環境とは					
13~14	空気・水・日光	大気・水の組成と健康。日光と健康					
15~16	気候・衣服・食品衛生（1）	季節とのかかわり。衣服の衛生。食中毒					
17~18	食品衛生（2）・住居	食中毒。住居環境					
19~20	上下水道・廃棄物	公衆衛生にかかる社会基盤としての上水道・廃棄物処理システム					
21~22	衛生害虫・公害	健康に関係の深いそ族昆虫とその対策。各種公害の知識。					
23~24	美容所の衛生管理	具体的な衛生管理の要領					
25~26	公衆衛生のまとめ&模擬テスト	まとめ&質疑応答					
27~28	環境衛生のまとめ&模擬テスト	まとめ&質疑応答					
29~30	期末試験						
到達目標	国家試験に合格することは当然の目標とするが、美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つことを最終目標としたい。						
評価方法	期末試験の成績と出席状況、履修態度などを総合して評価						
履修上の 注 意	過去の国家試験出題傾向などから必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める。						
参考文献	『東京都感染症マニュアル』 他、講義内容により適宜使用する。						

授業科目	感染症 Infectious Diseases						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	菅野 康則						
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容という仕事は多くの人間と接することの多い職業である。そのため衛生ということについて特に注意する必要がある。この講義では感染症予防という立場からいろいろな注意事項について解説する。						
授業概要	美容師になる上で必要な感染症の知識を学習する。						
時間外学習	学生は、シラバスの項目に従って教科書で予習してから講義に臨んで下さい。受講後は、講義時に配布された資料に基づきノートを整理して知識を蓄積するよう努めてください。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	感染症と人類の戦い	感染症の歴史を説明する。					
3~4	感染症の種類と分類	感染症を重篤度から分類することを説明する。					
5~6	病原体について	細菌、ウイルス、原虫などを説明する。					
7~8	感染と発病の違い	感染しても発病しないことがある					
9~10	感染症予防の3原則	感染症の発生・流行を防ぐ方法について説明する。					
11~12	免疫と予防接種	法律で定められたワクチンについて説明し、ワクチンの発病予防の仕組みについて解説する。					
13~14							
15~16	小テストによる、まとめ	美容師として知っておきたい感染症の特徴と予防対策について詳細に説明する。					
17~18	ラッサ熱等と予防対策						
19~20	ポリオ、コレラ、細菌性赤痢、O-157と予防対策						
21~22	狂犬病、ウイルス性肝炎、インフルエンザと予防対策						
23~24	エイズ、梅毒、麻しんと予防対策						
25~26	百日せき、風しん、結核と予防対策						
27~28	美容所における感染症予防	日常の衛生対策について説明する。					
29~30	小テストによる、まとめ						
到達目標	美容師国家試験の合格						
評価方法	試験による						
履修上の 注 意	出席状況の悪い学生は受験資格を失う。						
参考文献							

授業科目	皮膚科学 I Dermatology I						
開講年次	2 年前期	単位	1 単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	大澤 嘉久						
テキスト	『理容美容保健』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	皮膚や毛髪に鋭利な刃物や薬品などを使用する業務上の特徴から、皮膚や毛髪に関する「皮膚科学」の基礎を学ぶ。 美容師国家試験「皮膚科学」の合格を目指す。						
授業概要	一般的な皮膚科学の講義とともに、話題の最新情報などを披露する。						
時間外学習	4 月中に「皮膚科学」教科書を始めから終わりまで目を通す。 1 回の授業で約 3.5 ページ進むので、前の日に目を通して疑問点をチェックする。 帰宅したら、授業中に理解したかのチェックと、授業の要点を整理する。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	皮膚の構造	皮膚の表面。皮膚の断面。表皮。					
3~4		表皮の続き。表皮と真皮の境。					
5~6		真皮。皮下組織。					
7~8		皮膚の部位差ならびに人種差。					
9~10	皮膚付属機関の構造	毛。					
11~12		毛の続き。					
13~14		毛の続き。脂腺。汗腺。					
15~16		爪。					
17~18	皮膚の循環系と神経系	皮膚の血管。皮膚のリンパ管。皮膚の神経。					
19~20	皮膚と付属機関の生理機能	対外保護作用。					
21~22		体温調節作用。知覚作用と皮膚反射。					
23~24		分泌排泄作用。					
25~26		呼吸作用。吸収作用。貯蔵作用。免疫・解毒・排除作用。					
27~28		ビタミン D 形成作用。表情作用。再生作用。毛のはたらき。爪のはたらき。					
29~30	総まとめ	国家試験対策。					
到達目標	美容の現場に必要な皮膚科学の基礎を身に付ける。						
評価方法	期末試験による。						
履修上の 注 意	講義を自ら消化・吸収するように努めること。						
参考文献	必要に応じて講義時に指示。						

授業科目	皮膚科学Ⅱ DermatologyⅡ						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	田代 和治						
テキスト	『理容美容保健』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容師として必要な皮膚科学の基礎と、健康的な皮膚の正しい知識について学習する。 美容師は皮膚や毛髪に薬品、刃物などを使用する業務の特徴から皮膚や毛髪に関する理解が必要である。						
授業概要	皮膚の保護や手入れ、皮膚疾患などについて基礎的な知識を教授する。 必要に応じてプリント、ビデオなどを使用する。 国家試験受験対策として、講師作成の練習問題(小テスト用)を10回ほど実施する。						
時間外学習	準備学習、予習、復習について ①美容師国家試験の受験科目であることを良く理解すること。 ②テキスト(講義で使用する教科書)をよく読んで、理解できないところをチェックしておくこと。 (本文だけでなく図、表、写真なども含む。) ③授業中の質問も用意しておくこと。 ④講師作成の「練習問題」や「学習のまとめ」をよく読んで理解し、自分が間違えた問題についてはどうして間違えたのかテキストや講義内容により、しっかり検討しておくこと。とくに重要と思われるキーワードは必ず理解し、確実に覚えること。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	皮膚と全身状態	健康状態が皮膚におよぼす影響					
3~4	皮膚と栄養	各種の栄養素と皮膚の関係					
5~6	皮膚と環境	暑さ・寒さ・日光の皮膚におよぼす影響					
7~8	皮膚と体内病変	臓器の病気やホルモンが皮膚におよぼす影響、皮膚の水分と脂の状態					
9~10	皮膚の老化	老化の原因、老化の予防					
11~12	皮膚の保護と手入れ	あぶら性、荒れ性、フケ症などの手入れ、紫外線に対する対策、リラックスによるスキンケアなど					
13~14	毛と爪の保護と手入れ	毛の衛生、マニキュア・ネイルなどの影響、水泳後の毛の障害					
15~16	皮膚疾患の原因など	皮膚の異常とその種類、内因性および外因性皮膚疾患					
17~18	皮膚疾患の治療	外用療法、外科的療法、理学的療法					
19~20	皮膚疾患の種類(1)	湿疹、皮膚炎、蕁麻疹、角化・色素異常、血管腫、下肢静脈瘤、分泌異常など					
21~22	皮膚疾患の種類(2)	細菌、真菌、ウイルス、動物による皮膚疾患					
23~24	毛と爪の疾患	白髪、脱毛症、多毛症、爪の疾患					
25~26	感染性皮膚疾患・腫瘍	感染性皮膚疾患の予防、皮膚の腫瘍					
27~28	後期学習のまとめ						
29~30	期末テスト						
到達目標	国家試験の合格を目標とする。						
評価方法	1.出席状況 30% 2.小テスト(講師作成の練習問題) 20% 3.期末テスト 50% 以上を総合的に考慮して評価する。						
履修上の 注 意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。						
参考文献	初回授業において、「皮膚科学Ⅰ,Ⅱ」の参考文献一覧表を配布する。 その他、講義の時に必要であれば指示する。						

授業科目	人体の構造と機能 I Structure and Function of Human Body I						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウエルネスデザイナー認定資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	三上 彰貴子						
テキスト	『理容美容保健』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容師として必要な基礎的な人体の構造（仕組み）について学習する。 頭や顔を中心とする人間の美と健康にたずさわる保健衛生分野の職業である美容師に必要な解剖学に関する基礎知識ならびに、現場で役立つ知識を知ること为目标とする。						
授業概要	人体がどのような仕組みをもって構成されるかを教授する。必要に応じてプリント、映像などを使用する。						
時間外学習							
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	はじめに	授業概要、人体各部の名称、他					
3~4	頭部、顔部、頸部	頭部、顔部、頸部の体表解剖学					
5~6	細胞と体液（1）	細胞から系統まで、皮膚系、体液					
7~8	細胞と体液（2）	血液のあらまし、環境と生体（12章）					
9~10	骨格器系	骨の種類と構造、骨の連結					
11~12	筋系	筋の種類とその特徴、主な骨格筋（頭、頸、上肢下肢、体幹）					
13~14	神経系（1）	神経系のなりたち、中枢神経					
15~16	神経系（2）	末梢神経、自律神経の仕組み					
17~18	感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、臭覚、皮膚感覚、深部及び内臓感覚					
19~20	循環器系	血液循環の仕組み、血液の循環経路、リンパ管系					
21~22	呼吸器系	呼吸器系のあらまし、気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動					
23~24	消化器系（1）	消化器系のあらましと仕組み					
25~26	消化器系（2）、内分泌（1）	消化腺とその働き（外分泌系）、人体とホルモン、下垂体（内分泌系）					
27~28	内分泌系（2）	甲状腺と上皮小体、膵臓、副腎、精巣と卵巣、内分泌系の調節機能、他					
29~30	泌尿器系、まとめ	泌尿器系の仕組み、全体のまとめ					
到達目標	国家試験の合格を目標とする。						
評価方法	1.出席状況 2.小テスト 3.期末テスト 以上を総合的に考慮して評価する。						
履修上の 注 意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること。原則として2/3以上の出席を評価の対象とする						
参考文献	講義の時に必要であれば指示する。						

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ Structure and Function of Human BodyⅡ						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウエルネスデザイナー認定資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	大澤 嘉久						
テキスト	『理容美容保健』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容師は頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業上の特徴から、一般の人以上に解剖学・生理学に関する知識が求められる。そのために、人体の構造と機能に関する基礎を学ぶ。 美容師国家試験「人体の構造と機能」の合格を目指す。						
授業概要	一般的な解剖学・生理学の講義とともに、話題の最新情報などを披露する。 主として、テキスト「理容美容保健」の「人体の構造と機能」の後半を講義する。						
時間外学習	9月中に「人体の構造と機能」教科書を始めから終わりまで目を通し、概要をつかむ。 1回の授業で約5ページ進むので、前日に目を通して疑問点をチェックする。 自宅で、授業中に理解したかのチェックと、授業の要点を整理。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	循環器系	血液循環の仕組み。血液の循環経路。心臓と血管の働き。					
3~4		リンパ管系の仕組みと働き。循環器系の保健。					
5~6		循環器系の保健。					
7~8	呼吸器系	呼吸器系のあらまし。気道。					
9~10		肺の仕組みとガス交換。呼吸運動。					
11~12		呼吸器系の保健。					
13~14	消化器系	消化器系のあらまし。消化管の仕組み。消化管の働き。					
15~16		消化腺とその働き。消化と物質代謝。					
17~18		消化器系の保健。					
19~20	泌尿器系	泌尿器系の仕組み。泌尿器系の働き。泌尿器系の保健。					
21~22	内分泌器系	人体とホルモン。下垂体（脳下垂体）。					
23~24		甲状腺と上皮小体。膵臓。副腎。精巣と卵巣。					
25~26		内分泌器系の調節機構。ストレス。内分泌器系の保健。					
27~28	環境と生体	生理的適応。免疫的適応。					
29~30	総まとめ	国家試験対策。					
到達目標	美容の現場に必要な解剖学・生理学の基礎を身に付ける。						
評価方法	期末試験による。						
履修上の 注 意	講義を自ら消化・吸収するように努めること。						
参考文献	必要に応じて講義時に指示。						

授業科目	物理 Physics						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	山下 光男						
テキスト	『物理・化学「物理」』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	理容・美容の分野では、物理の知識と原理が数多く使われています。本講座では、それらを十分に理解し、理容・美容技術をより高め、より安全に行う事を目標とします。さらに、毎回、演習問題を解き、国家資格取得のための実力を養います。						
授業概要	テキストの内容に沿って、力学、熱学、光学、電磁気学の順に講義します。それらの内容を演習問題や小テストにより確認します。毎回、スライドを使い、質疑や、講義内容をレポートにまとめて提出してもらいます。ビデオやWEBからの画像情報を検討することもあります。						
時間外学習	準備学習、予習、復習は、特に必要ありません。授業に集中し、レポートをまとめることで、実力がついてきます。授業の内容について、疑問点があれば、その授業終了後に質問するようにしてください。演習問題の解き方が、わからないときは、もう一度自分で考えてみることも必要です。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	力とその働き	力の三要素、力のつり合い、モーメント、てこ、物体の安定					
3~4	刃物と力	力による物体の変形、刃物の切断作用と使い方					
5~6	温度と熱	セ氏温度と絶対温度、温度計、比熱と熱容量					
7~8	熱の移動	熱力学の基礎、熱の伝導・対流・放射、保温					
9~10	物質と状態変化	物質の三態と状態変化、状態変化と熱の出入り					
11~12	光の進み方	光の直進と速さ、光の反射と屈折、平面鏡					
13~14	光の色と明るさ	光の色と物体の色、光源と明るさ、部屋の明るさ					
15~16	電気の基本的性質	摩擦電気、静電気、電流と電気抵抗、オームの法則					
17~18	電気の化学作用と電池	電流の化学作用、電気分解、電池とその種類					
19~20	電気エネルギー	電流と熱、ジュールの法則、電力と電力量					
21~22	磁石と電流の磁気作用	磁石と磁気、電流の磁気作用、フレミングの左手の法則					
23~24	電磁誘導と変圧器	モーター、電磁誘導と誘導電流、変圧器（トランス）					
25~26	理容・美容の電気機器	電流の作用と電気機器、理容・美容器具、赤外線と紫外線					
27~28	電気機器の使用上の注意	電気に関する法律、漏電と感電、ショートと接触不良、電気機器取り扱い上の注意点					
29~30	終講試験	筆記試験					
到達目標	理容・美容の器具や道具を正しく安全に取り扱うことができ、力、熱、光、および電氣的な基礎知識を理解できることを目標とします。また、美容師国家試験受験に備えて、物理の基本問題を解く知識や能力を得ることも到達目標です。						
評価方法	毎回レポートを提出してもらい、出席点と平常点に加算します。合計30%前後にします。また、終講試験の割合は70%前後で、両方をあわせて総合成績として、合否および優良可を決めます。						
履修上の 注 意	将来の目標をしっかりと定め、自分の将来のために勉強して下さい。必ず、役に立つ時がくるはずですが、出席率が不足した場合は、終講試験が受けられないので注意して下さい。						
参考文献	『物理』 大島泰朗 監修 実教出版 2004						

授業科目	化学 Chemistry						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	鎌田 正純						
テキスト	『物理・化学「化学・化粧品化学」』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	現在の美容には様々な化学物質や化学反応が応用されている。従って美容師には、美容に応用されている化学の知識や知見は不可欠である。そこで、本授業では、美容と関連性のある化学の基礎知識を理解することを目標とする。本目標を達成するために、化学の基礎から授業を行うが、特に、美容と関連が深い生体成分の働きや化粧品素材の知識を習得する上で必要となる物質の性質や化学反応の基礎知識の教授を重点的に行う。また、化学は自然現象・生命現象・環境問題などに深く関係している。すなわち、我々の日常生活における健康的な生命活動に関しても、化学の視点から見ることもできる。このように、様々な形で化学が活用されていること・活用できることを理解することも目標とする。						
授業概要	美容や健康との関連性を重視した授業を行うことを予定している。①「化学の基礎」（1回－4回）：化学を学ぶにあたり、必要となる基礎知識を教授し、化学的な視点から物質を捉えることを目指す。②「無機素材」（5回－6回）、③「有機素材」（7回－12回）および、④「天然素材」（13回－16回）：基本的な純物質の名称、化学構造および、その性質や機能の紹介に加え、化粧品（化粧品など）への応用されている物質について、名称、化学構造および、その性質や機能を教授する。⑤「混合物の化学」（17回－22回）および⑥「化学反応と美容」（23回－26回）：美容に応用されている化学反応や混合物の性質などについて、化学的な知見や視点に基づいて紹介する。⑦「化学と生命」（27回－29回）：人間の健康維持について、化学の視点から紹介する。下記の授業計画には、各授業の概要と学習上重要となるキーワードを掲載した。						
時間外学習	予習・準備学習は、本シラバス中の内容およびキーワードを参考に、『物理・化学「化学・化粧品化学」』にてその言葉の意味および、その言葉が用いられている分野の把握に努めること。また、必要に応じて参考文献を調べること。 復習は、授業で使用したプリントをもとに、『物理・化学「化学・化粧品化学」』にて、学習内容の確認を行うこと。そして、本シラバスに記載されているキーワードについては、しっかり説明できるように自らの言葉でノート等に整理しておくとともに、①～③の項目についてもその内容を合わせて整理しておくこと。また、実生活に応用されているものについては、自宅等にある製品を手に取り、その応用例を確認すること。						
授業計画							
回	項目	内容					
1~2	化学の基礎1 物質の構成と元素	①物質の定義・分類および存在状態について理解する。②物質を構成する原子とその基本構造について理解する。③原子の安定化とイオンについて理解する。 [キーワード] 混合物・純物質・単体・化合物・元素・原子・陽子・中性子・電子・イオン					
3~4	化学の基礎2 化学結合と化学反応	①物質を構成する原子間の化学結合について理解する。②化学反応と化学平衡の基本的な考え方について理解する。③物質の定量的な扱いについて理解する。 [キーワード] イオン結合・共有結合・金属結合・分子・結晶・化学反応式・質量保存則・可逆反応・不可逆反応・化学平衡・原子量・モル					
5~6	無機素材 単体と無機化合物	①水やアンモニアのような非金属物質の性質について理解する。②金属原子および金属化合物の性質や用途について理解する。③無機化合物の命名法について理解する。 [キーワード] 無機物質・非金属・希ガス・金属・合金・酸化物・イオン化傾向・無機顔料（白色顔料・着色顔料・体質顔料）					
7~8	有機素材1 有機化学の基礎と炭化水素	①有機化学の基盤となる炭化水素の名称と構造の関係を理解する。②化学式と構造式の違い（異性体）について理解する。③炭化水素の由来、性質や用途について理解する。 [キーワード] 炭化水素・アルカン・アルケン・アルキン・異性体・単結合・二重結合・三重結合					

9~10	有機素材 2 官能基をもつ有機化合物	①有機化合物を特徴づける官能基の種類と構造について理解する。②官能基を含む有機化合物の名称の特徴を理解する。③化粧品等に使用される様々な官能基をもつ有機化合物の機能について理解する。 [キーワード] アルコール・アルデヒド・ケトン・カルボン酸・アミン・エステル・多価アルコール・高級アルコール・脂肪酸
11~12	有機素材 3 芳香族と高分子	①芳香族の化学的な特徴と構造について理解する。②高分子の合成法と化学的な特徴について理解する。③日常生活および美容に使用されている様々な芳香族と高分子の特徴をについて理解する。 [キーワード] 芳香族・ベンゼン・二置換芳香族(オルト-, メタ-, パラ-)・単量体・高分子・重合・縮合・熱可塑性・熱硬化性。
13~14	天然素材 1 脂質と糖類	①脂質の基本構造、脂質の生体内や化粧品における機能について理解する。②糖の基本構造、糖の生体内や化粧品における機能について理解する。③脂質や糖から誘導される物質の機能について理解する。 [キーワード] 脂質・油脂・トリグリセリド・ロウ・脂肪酸・酸化防止剤・単糖・二糖類・多糖
15~16	天然素材 2 アミノ酸とタンパク質	①アミノ酸とアミノ酸から構成されるタンパク質の化学構造および機能について理解する。②毛髪の化学的な構造と毛髪の代表的な構成成分について理解する。 [キーワード] アミノ酸・ペプチド・単純タンパク質・複合タンパク質・酵素・ケラチン・シスチン・シスチン結合・イオン結合・水素結合・メラニン
17~18	混合物の化学 1 溶液・酸とアルカリ	①混合物の特徴について理解する。②代表的な混合物である水溶液の構成および定義について理解する。③酸と塩基が水溶液中で示す特徴について理解する。 [キーワード] 溶液・水溶液・溶質・溶媒・水和イオン・非水和イオン・溶解度・飽和溶液・弱酸・強酸・弱塩基(弱アルカリ)・強塩基(強アルカリ)
19~20	混合物の化学 2 水素イオン指数・酸とアルカリの反応	①酸とアルカリが関与する化学反応について理解する。②水溶液の定量的な扱い(濃度)について理解する。③水溶液中に生じた水素イオン定量的に扱いについて理解する。 [キーワード] 中和反応・加水分解反応・塩・けん化・モル濃度(mol/L)・pH(水素イオン指数)・水のイオン積・pH指示薬
21~22	混合物の化学 3 界面活性剤とコロイド	①界面活性剤の化学構造の特徴とその性質について理解する。②界面活性剤のつくる特異な構造について理解する。③様々な物質が不均一に存在する混合物(コロイド)について理解する。 [キーワード] 界面活性剤(陰イオン・陽イオン・両性イオン・非イオン)・コロイド・乳化・懸濁・分散層・分散媒・コロイド・ミセル・ゾル・ゲル
23~24	化学反応と美容 1 酸化と還元	①酸化反応と還元反応の定義や特徴について理解する。②パーマネントウェーブ剤の毛髪への作用について理解する。③燃焼と消火の原理について理解する。 [キーワード] 酸化・酸化剤・還元・還元剤・燃焼・パーマネントウェーブ第1剤・パーマネントウェーブ第2剤
25~26	化学反応と美容 2 化学構造と色	①有機化合物の共役二重結合と吸収波長の関係について理解する。②化粧品に利用される有機合成色素や紫外線吸収剤について理解する。③カラーリング、ブリーチの原理について理解する。 [キーワード] 共役二重結合・吸収波長・有機合成色素・紫外線吸収剤・酸性染料・酸化染料(p-フェニレンジアミン)・過酸化水素
27~28	化学と生命 1 微量元素とフリーラジカル	①生体に極僅かながら確実に存在する必要がある元素の生体内機能について理解する。②代表的なフリーラジカルである酸素のエネルギー代謝における役割と毒性を示す活性酸素として作用について理解する。 [キーワード] 微量元素・金属酵素・SOD・呼吸・フリーラジカル・活性酸素・健康と寿命

29~30	化学と生命2 遺伝子	①生命の基本情報といわれる遺伝子について理解する。②遺伝子組換え技術について理解する。③遺伝情報に基づく生命機能の解析、医療などへの応用について理解する。 [キーワード] 遺伝子・DNA・RNA・タンパク質・遺伝子組換え・バイオインフォマティクス
到達目標	美容や健康と関連性のある化学の基礎知識、物質の基本的な性質、自然界の原理などを修得することを目標とする。特に、授業計画に記載したキーワード等について、美容や健康との関連性に基づいて理解することを目指す。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は、基本的に期末試験の得点によって評価する。</li> <li>・なお、期末試験の得点が60点以上の者に対しては、練習問題や課題の提出状況を加点要素とする。</li> </ul>	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は、美容師法上の必修科目であるので、原則として欠席は認めない（欠席した場合には、その理由に関わらず欠席届を提出すること）。</li> <li>・『物理・化学「化学・化粧品化学」』は授業に使用するので、必ず持参すること。</li> <li>・講義中のおしゃべりをはじめ、手紙をまわすなどの他人の迷惑となる行為は厳禁とする（退出を命じるとともに、以後、本授業に参加する権利を剥奪します）。</li> <li>・美容分野で活躍するためには、化学に関する知識は必須である。化粧品化学の授業やその後のスキルにおいても利用できるように、講義内容はノート等にきちんとまとめておくことが重要である。</li> </ul>	
参考文献	<p>○化学の基礎を学ぶために 『化学超入門』 左巻建男 編著 日本実業出版社 2003</p> <p>○より深く学びたい方のために 『界面・コロイド化学の基礎』 北原文雄 著 講談社サイエンティフィック 1997 『色の化学』 中原勝儼 著 培風館 2002 『金属は人体になぜ必要か』なければ困る銅・クロム・モリブデン 桜井弘 著 講談社ブルーバックス 1996 『活性酸素の話』 病気や老化とどうかかわるか 永田親義 著 講談社ブルーバックス 1998 『フリーラジカルの科学』 吉川敏一 著 講談社 1998 『生物化学序説』 泉屋信夫 野田耕作 下東康幸 著 化学同人 1987 『初心者でもわかるバイオインフォマティクス入門』 坊農秀雄 著 羊土社 2002</p>	

授業科目	香粧品化学 Cosmetic Chemistry						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	内堀 毅						
テキスト	『物理・化学「化学・香粧品化学」』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	香粧品に用いられている原料の化学的性質や配合目的などについて学び、各種香粧品の有用性、安全性および使用目的について知識を深めます。						
授業概要	香粧品概論、香粧品原料、基礎香粧品、メイクアップ香粧品、毛髪用香粧品、特殊香粧品の項目に分けて解説します。 美容師として業務上使用する香粧品だけではなく、日常一般にされている香粧品に表示されている配合成分の化学的性質や配合目的などについて学びます。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	香粧品概論 香粧品と薬事法	香粧品の歴史と定義について 香粧品と薬事法との関連について					
3~4	香粧品原料 1 水性原料 油性原料	香粧品に使用されている水性原料の種類と性質、及び保湿剤について 香粧品に使用されている油性原料の機能及び種類と性質について					
5~6	香粧品原料 2 界面活性剤	界面活性剤の基本的性質について 香粧品に使用されている界面活性剤の種類について					
7~8	香粧品原料 3 高分子化合物 香料	香粧品に使用されている高分子化合物の種類と用途について 香粧品に使用されている香料の役割および種類について					
9~10	香粧品原料 4 色材	香粧品における色材の重要性および効果と役目について 香粧品に使用される色材の種類と性質について					
11~12	香粧品原料 5 その他の配合成分	防腐・殺菌剤、酸化防止剤について 紫外線防止剤、収れん剤およびホルモン類、ビタミン類、アミノ酸類等について					
13~14	基礎化粧品 1 皮膚用洗淨剤 化粧水	基礎化粧品の使用目的と作用、および皮膚用洗淨剤の種類と機能について 化粧水の種類と機能について					
15~16	基礎化粧品 2 クリーム・乳液	クリーム・乳液の皮膚への作用、およびエモリエント剤について クリーム・乳液の種類と機能、およびその他の基礎化粧品について					
17~18	ベースメイクアップ香粧品	メイクアップ香粧品の役割、分類および必要な性質について ベースメイクアップ香粧品の種類と機能について					
19~20	ポイントメイクアップ香粧品	ポイントメイクアップ香粧品の使用目的と種類について 紅類およびアイメイクアップ香粧品の種類と機能について					
21~22	毛髪用香粧品 1 シャンプー剤 リンス剤・スタイリング剤	頭皮および毛髪について、およびシャンプー剤の種類と機能について リンス剤・スタイリング剤の種類と機能について					
23~24	毛髪用香粧品 2 パーマネントウェーブ溶剤	パーマネントウェーブの原理について パーマネントウェーブ用剤の種類					
25~26	毛髪用香粧品 3 染毛剤	染毛剤を中心にヘアブリーチ剤等の種類と機能について					
27~28	その他の香粧品	芳香製品、サンケア製品の種類と機能について 美白香粧品、制汗・脱臭剤、ニキビ用香粧品の種類と機能について					
29~30	筆記試験						
到達目標	美容師国家試験の香粧品化学の問題を確実に正解できる知識を身につけること。および、美容師として香粧品に関するアドバイスが出来るよう香粧品の有用性、安全性および使用目的に対する十分な知識を習得することを目標とします。						
評価方法	講義毎ごとに毎回行なう小試験およびレポートの評価結果、および期末試験の結果の結果から総合的に評価します。特に出席状況と普段の受講態度も考慮します。						
履修上の 注 意	美容分野で活躍するには技術以外に、香粧品に関する知識もまた大変重要になります。卒業後も利用できるように講義内容やプリント等は講義のたびに各自でまとめ、いつでも利用出来るようにしておくことを心掛けて下さい。また返却されたレポートや小テストの結果は国家試験のための対策に使用されたい。						
参考文献	必要に応じてプリントを用意する。						

授業科目	美容の歴史と文化 History and Culture of Aesthetics						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	鈴木 昌子、澤村 英子、下家 由起子						
テキスト	『美容文化論』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	<p>古来日本人が他国から受容した技術や表現技術をいかに吸収し、自国の美容文化として昇華させていったのか、わが国における美容の歴史と文化の形成について考えることを目標とする。そして国際人として活躍するために、主に髪型・服装等の視点から日本の文化、歴史の理解を深める。</p> <p>また、接客において、年齢にかかわらず、多くの人とコミュニケーションができなければならないが、髪型にまつわる話題作りとして、日本の基本的伝統文化の知識を習得する。</p> <p>本科目では祖先から継承してきたわが国の美意識の源流と周辺諸国における美意識を探究することで、その共通性や相違点を受講生自らの視点で感じ取ってもらいたいと思う。後半は西洋の美意識についてもふれる。</p>						
授業概要	大陸文化の受容によって日本の文化が誕生したといえる。日本の歴史のみならず大陸の歴史を通しながら、どのように日本の風俗が出来上がったかを学ぶ。						
時間外学習	テキスト（教科書）を一読すること。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	中国の装飾史と日本の歴史の概要	古代のファッション 髪について					
3~5	衣禪・衣裳、袍袴・裙様式と結髪	大陸文化の影響 はきもの・冠について					
6~8	束帯、袷様式と結髪	独自の国風文化の発達 仏像のみわけ方					
9~11	上下様式と結髪	甲冑について学ぶ 武士の世界					
12~13	南蛮風俗と結髪	近世初期風俗画を通して、屏風、帯、髪飾、縮毛					
14~15	小袖様式と結髪	浮世絵を通して、江戸中期、後期の風俗を学ぶ					
16~17	和洋折衷様式と結髪	身分階級から時代の表現へ 西洋文化の流入による風俗					
18~19	新日本髪展示、日本髪のデッサン	日本の風俗である新日本髪を展示する					
20~21	現代の美容における装飾文化Ⅰ	造形文化と美意識①					
22~23	現代の美容における装飾文化Ⅱ	造形文化と美意識②					
24~25	現代の美容における装飾文化Ⅲ	造形文化と美意識③					
26~27	現代の美容における装飾文化Ⅳ	造形文化と美意識④					
28~29	現代の美容における装飾文化Ⅴ	造形文化と美意識⑤					
30	まとめ						
到達目標							
評価方法	出欠状況・ミニレポート・レポートから総合的に判断する。						
履修上の 注 意	欠席があると単位修得不可となる。 美術展や展覧会の鑑賞など、自主的な活動を望む。						
参考文献	プリント配布、ビデオ						

授業科目	美容デザイン Aesthetic Design						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	富田 知子、武藤 祐子						
テキスト	資料配布						
教育目標 ねらい	お洒落を含む全ての生活空間が高級化し、より格調高い美意識が求められるようになった。この授業では、人体を中心に、髪、服飾等の美的原理、さらに古典美の基本などを学びこれからの美容のあり方について考察する。また、講義に平行して、簡単なスタイル・デッサンを行い美しい造形について理解を深める。						
授業概要	古代から現代までの美容の歴史を振り返り、建築、絵画、彫刻等の芸術と美容の関係を分析し、その中にある美的原理を知る。後半では、ヘアデッサンの基礎練習と、色々な要素からヘアデザインへの転換等をしデッサンで表すことを演習する。						
時間外学習	授業後、受講した部分に関係ある時代の作品集などを見ると理解が深まる。 また後半のヘアデッサンの部分では、ヘアメイク作品の写真をみるばあい、そのスタイル構成などを意識して見ることが大切である。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	古代の美容	講義：古代エジプトと古代ギリシア・ローマを					
3~4	中世の美容	講義：15世紀・16世紀					
5~6	近代の美容	講義：17世紀～19世紀					
7~8	現代の美容	講義：20世紀					
9~10	美容デザイン演習1	顔のバランス : 顔の描き方					
11~12	美容デザイン演習2	美容における点の要素 : 毛髪の描き方					
13~14	美容デザイン演習3	美容における線の要素 : ヘアデッサン1					
15~16	美容デザイン演習4	美容における色の要素 : ヘアデッサン2					
17~18	美容デザイン演習5	美容作品写真からのデザインの把握とデッサン①					
19~20	美容デザイン演習6	①からデザイン展開					
21~22	美容デザイン演習7	①からデザイン展開					
23~24	最終作品制作	最終作品のデザインコンセプトの決定					
25~26	最終作品制作	作品制作					
27~28	最終作品制作	作品制作					
29~30	最終作品制作	作品制作					
到達目標	時代様式と美容の関係、美容デザインの成り立ちを知り、各自ヘア・メイクデザインを作成できるようにする。						
評価方法	1. 授業の出席状況・授業態度 2. 作品提出 3. プレゼンテーション						
履修上の 注 意	1. 授業の出席状況・態度を重視します。 2. 作品への取り組み方を重視します。						
参考文献	『西洋髪型図鑑』 リチャード・コーソン著 女性モード社 1976						

授業科目	ファッション文化論 Fashion Studies						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	青木 和子						
テキスト							
教育目標 ねらい	<p>コミュニケーションの場において、衣服の貢献する力はいつの時代でも大変大きい。 長い服装史の中で 20 世紀に起こった変化は、それまでの歴史にはなかった新しいファッション概念を生み出した。激動の 100 年間で「デザイナーの偉業」という視点から客観的に検証することで、過去と現在が理解でき、未来が見えてくるはずである。</p> <p>この科目では、それらを通して流行のメカニズムと現代社会が持つファッションに対する価値観を探る。 また、フォーマル・ウエア（ブライダル・ウエアを含む）の最前線を見つめ、美容師の使命を考える。</p>						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 19 世紀末までのファッション史の展望</li> <li>2. 20 世紀初頭のドレス・ダウンという発想</li> <li>3. 社会情勢とファッションの関係</li> <li>4. 20 世紀が生んだファッション・システム</li> <li>5. 現在のドレス・コードとその必要性</li> <li>6. 「小袖」にみる意外な可能性 他</li> </ol>						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	モードのジャポニスム	19 世紀後半に日本の着物がヨーロッパに及ぼした影響を探る					
3~4	ベル・エポック	20 世紀初頭までに西欧ファッションが目指した価値観を検証する					
5~6	ドレス・コード	西洋のフォーマル・ウエアの成り立ちとその役割を理解する					
7~8	オート・クチュール	全盛期に導いたデザイナー達を追い、オート・クチュールを理解する。					
9~10	クチュリエール	世界大戦をはさんだ時代に活躍したデザイナーの仕事を追う					
11~12	ギャルソンヌ	女性の自立を引き起こしたファッション革命とは					
13~14	豊かさへのノスタルジー	第二次世界大戦後、女性の夢を実現したデザイナーを追う					
15~16	スティリスト	プレタ・ポルテの成り立ちとその動向を把握する					
17~18	ポペリズム	現在のファッションに対する価値観を築いたデザイナー達を追う					
19~20	ファッション・システムの揺らぎ	社会情勢をふまえた 20 世紀のファッション史を概観し、これからの考える					
21~22	日本の服装史	特殊な発展をとげた日本の服装史を、「小袖」を軸に検証する					
23~24	車いす利用者のための着物着つけ	「着物を着る」という概念から離れた着つけ法を知り、美容福祉を考える					
25~26	フォーマル・ウエア	世界基準のフォーマル・ウエアの正しい着装ルールとマナーを学ぶ					
27~28	ブライダル	現在のブライダル事情（洋装）を知る					
29~30	小テスト	大切な要点が理解できたか確認する					
到達目標	歴史と社会をふまえた 20 世紀のファッションを探ることで現代のファッション・システムを理解させ、今とこれからの時代を担うトレンド・セッターとしての自覚と責任を促し、客観視から生まれる一人一人の創造力と応用力を導き出したい。						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常の出席状況と出席態度</li> <li>2. レポート</li> <li>3. 小テスト</li> </ol>						
履修上の 注 意	学生自身のファッションに関するイベントや展覧会への鑑賞を望む						
参考文献	『美容文化論』 日本理容美容教育センター編 『美容技術理論 2』 日本理容美容教育センター編						

授業科目	美容技術理論 I Hairstyling Theory I						
開講年次	1 年前期	単位	1 単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、趙智順、秋田留美、及川麻衣子、酒井朋恵 他						
テキスト	『美容技術理論 1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここではまず美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。						
授業概要	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。						
時間外学習	学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	序章 美容技術理論を学ぶにあたって	美容理論と美容技術について 美容技術における作業姿勢 美容技術に必要な人体各部の名称					
3~4	1 章 美容用具	美容技術と用具 コーム・ブラシ・シザーズ・レーザーの種類 扱い方					
5~6		ヘアアイロン・ヘアドライヤー・ヘアスチーマー・遠赤外線・その他の美容用具					
7~8	3 章 ヘアカッティング	ヘアカッティングとは シザーズとレーザーの扱い方 ヘアカッティングの正しい姿勢					
9~10		ブロッキング ヘアカッティングの基礎理論					
11~12	4 章 パーマネントウェービング	パーマネントウェーブの歴史と現在					
13~14		ブロッキング パーマネントウェーブの理論					
15~16		パーマネントアラカルト					
17~18	2 章 シャンプーイング	シャンプーイング					
19~20		リンス、コンディショナー、トリートメント					
21~22		スカルプトリートメント					
23~24	4 章 パーマネントウェービング 理論	復習					
25~26		実際に行うにあたっての注意事項					
27~28	各章まとめ						
29~30	試験						
到達目標	美容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる						
評価方法	出席状況、ノート提出、期末テスト、授業態度						
履修上の 注 意	欠席があると再履修もしくは卒業不可						
参考文献							

授業科目	美容技術理論Ⅱ Hairstyling TheoryⅡ						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、趙智順、秋田留美、及川麻衣子、酒井朋恵 他						
テキスト	『美容技術理論1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	現在の美容技術は薬剤の発展と共に複雑化し、正確に行わないと危険を伴うこともある。ここではまず美容技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。						
授業概要	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。						
時間外学習	学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1～2	5章 ヘアセッティング	ヘアセッティングとは ヘアパーティング					
3～4		ヘアウェービング					
5～6		フィンガーウェーブの基礎技術 ①					
7～8		フィンガーウェーブの基礎技術 ②					
9～10		クロッキノールカール技術					
11～12		オールウェーブ構成					
13～14		スカルプチュアカール技術					
15～16		リフトカール技術					
17～18		メイポール技術					
19～20		6章 ヘアカラーリング	ヘアカラーリング概要				
21～22	ヘアカラーの種類 ヘアカラーのタイプ別特徴						
23～24	染毛のメカニズム 色の基本						
25～26	ヘアカラーリングの注意事項 パッチテスト（皮膚と貼布試験）						
27～28	各章まとめ						
29～30	試験						
到達目標	美容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる						
評価方法	出席状況、ノート提出、期末テスト、授業態度						
履修上の 注 意	欠席があると再履修もしくは卒業不可						
参考文献							

授業科目	美容技術理論Ⅲ Hairstyling TheoryⅢ						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、趙智順、秋田留美、及川麻衣子、酒井朋恵 他						
テキスト	『美容技術理論 1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容理論を学ぶことによって、より幅広い知識を得て、サロンワークでの技術に結び付ける事が出来、又、応用することが可能になる。						
授業概要	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。 美容技術理論Ⅰで学んだ事を土台として、さらにトータル的に美容について修得していく。						
時間外学習	学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	国家試験 第1課題 オールウェーブ理論	オールウェーブの構成 美容用具					
3~4		カールの構成					
5~6		チェックポイント 注意事項					
7~8	小テスト	国家試験 第1課題					
9~10	2章 シャンプーイング	シャンプーイング、リンス、コンディショナー、トリートメント					
11~12		スキャルプトリートメント					
13~14	3章 ヘアカット	シザーズによるカット技法					
15~16		レザーによるカット技法					
17~18	小テスト						
19~20	国家試験 第1課題 パーマメントウェービング理論	パーマメントウェービングの構成					
21~22	4章 パーマメントウェービング	パーマメントアラカルト					
23~24	5章 ヘアセッティング	ローラーカーリング スキップウェーブ バックコーミング					
25~26		ブロードライ アイロンセッティング					
27~28		アップスタイル ウィッグとヘアピース					
29~30	前期末試験						
到達目標	美容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる						
評価方法	1.出席状況 2.小テスト 3.中間・期末テスト						
履修上の 注 意	欠席があると再履修もしくは卒業不可						
参考文献							

授業科目	美容技術理論Ⅳ Hairstyling TheoryⅣ						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、趙智順、秋田留美、及川麻衣子、酒井朋恵 他						
テキスト	『美容技術理論 1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容理論を学ぶことによって、より幅広い知識を得て、サロンワークでの技術に結び付ける事が出来、又、応用することが可能になる。						
授業概要	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。 美容技術理論Ⅰで学んだ事を土台として、さらにトータルの美容について修得していく。						
時間外学習	学んだ基礎理論を復習し、ノートにまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	国家試験 第2課題 ヘアカッティング理論	ヘアカッティングの構成					
3~4	6章 ヘアカラーリング	毛髪のアンドートーンとレベルについて					
5~6		ヘアブリーチ					
7~8		酸化染毛剤 酸性染毛剤の技術プロセス					
9~10	小テスト						
11~12	8章 ネイル技術	ネイル技術概論 種類 爪の構造 爪のカット形状					
13~14		注意事項とカウンセリング マニキュア ペティキュア リペア技術					
15~16	10章 日本髪	由来 各部の名称 種類と特徴					
17~18	小テスト						
19~20	7章 エステティック	エステティック概論 マッサージ理論 フェイシャルケア ボディケア 脱毛ケア					
21~22	9章 メイクアップ	メイクアップ概論 皮膚の生理学・構造 メイクアップの基本テクニック					
23~24	11章 着付けの理論と技術	着付けの目的 着物・帯の種類 着付け技術					
25~26	小テスト						
27~28	各章のまとめ						
29~30	試験						
到達目標	美容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる						
評価方法	1.出席状況 2.小テスト 3.中間・期末テスト						
履修上の 注 意	欠席があると再履修もしくは卒業不可						
参考文献							

授業科目	マネジメント論・労務管理 Management and Labor Administration						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	桜木 孝司						
テキスト	『運営管理』 日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	全国の美容サロン数は毎年増え続けています。一方、日本の人口は今をピークにこれからは減少していきます。つまり、美容業界は今後ますます競争が激化していくわけです。そのような状況の中で、今後サロンが生き残っていくためには、経営・マネジメントの知識がどうしても必要となってきます。この講義では皆さんが将来サロンを持つときに、あるいは店長となって店舗を管理する立場になったときに必要となる経営・マネジメントの基礎を学びます。しかし、この経営・マネジメントの知識は決して経営者や店長となってはじめて必要となるものではなく、実はサロンに就職したときからすでに必要となってくるものなのです。競争が厳しい美容業界においては、経営・マネジメントの視点を持つこともこれからの美容師のあるべき姿です。今のうちからしっかりとビジネス感覚を身につけておいてください。						
授業概要	美容をビジネスの観点から見ていきます。サロン経営、店舗運営に直結する内容を講義するとともに、最新の美容業界の動きもつねにチェックしていきます。						
時間外学習	1. テキストは必ず事前に読んでおくこと。 2. 積極的にビジネス書・美容雑誌に目を通しておくこと。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて					
3~4	美容業の現状について	現在の美容業はどのような状況なのか					
5~6	経営とは何か?	経営・マネジメントの視点がなぜ必要か					
7~8	労務管理 1	美容業と労務管理 労務管理に関する知識					
9~10	労務管理 2	美容業と人事管理 美容業と社会保障制度					
11~12	経営管理 1	企業の形態 美容業と料金					
13~14	経営管理 2	美容業と経理 美容業の簿記と税務					
15~16	マーケティング 1	なぜマーケティングを学ぶのか マーケティングの基本的な考え方					
17~18	マーケティング 2	マーケティング戦略 競争とポジショニング					
19~20	マーケティング 3	美容業のためのマーケティング 戦略の立て方					
21~22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか 売上志向から顧客志向へ					
23~24	サロン起業 1	サロンの起業とはどのようなものか サロンの起業には何が必要か					
25~26	サロン起業 2	繁盛店を考えてみよう 1					
27~28	サロン起業 3	繁盛店を考えてみよう 2					
29~30	美容ビジネスの将来	今後の美容業はどうなっていくのか					
到達目標	美容業界をビジネスの観点から分析できる力を身につけます。そして皆さんが就職したときに、そして将来サロンを持つときに、店長になったときに役立つ知識とビジネス感覚を養います。						
評価方法	出席状況、授業態度、レポート等から総合的に考慮して評価します。						
履修上の 注 意	受講態度を重視します。						
参考文献							

授業科目	接客法 Customer Service Manners						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	増田 洋子						
テキスト	『運営管理』 日本理容美容教育センター編 2010 『サービス接客検定受験ガイド3級』 財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版 2007						
教育目標 ねらい	サービス業に携わる者として、顧客の求める 価値を提供し満足していただける接客知識と技能を学ぶ 接客検定 3級以上 合格						
授業概要	サービススタッフとして、接客マナー・接客技術と共に、お客様に受け入れていただける人間性を磨くための 一般常識としての基本知識を指導いたします。						
時間外学習	個々、自分自身がサービスを受けた時に、良かった事にたくさん感動し、覚え、人に接するときに行える 自分づくりをしていただきたい。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション・挨拶	接客業に携わる者としての挨拶・接客用語					
3~4	接客とは・サービススタッフの資質	『運営管理 p73~ 』『接客検定 p12~ 』					
5~6	接客の原点	『運営管理 p89~ 』 ホスピタリティとは					
7~8	接客の範囲・接客の実践	『運営管理 p95~ 』 おもてなしの環境づくり『接客検定 p114 』					
9~10	接客時のポイント1 話し方	『運営管理 p119~ 』『接客検定 p89~ 』					
11~12	接客時のポイント2	敬語の種類と使い方					
13~14	接客の基本（接客用語）	ご来店からお帰りまでの接客用語・金銭管理					
15~16	電話対応のマナー	電話の受け方・掛けかた					
17~18	接客における注意事項	苦情処理『運営管理 p130~ 』『接客検定 p106~ 』					
19~20	社交業務・慶弔のマナー	『接客検定 p123~ 』					
21~22	一般知識	社会人としてのマナー					
23~24	接客検定にトライアル						
25~26	履歴書の書き方						
27~28	予備						
29~30	期末テスト						
到達目標	サービス業に関わるものとして、笑顔で感じの良い挨拶ができること。接客検定3級合格						
評価方法	1. 出席状況（10%）規定時間以上の出席が原則 2. 授業中の態度（10%） 3. 期末テスト（筆記テスト80%）						
履修上の 注 意	1. 出席状況及び授業中の態度を重視いたします。 2. 授業中は私語・居眠り・飲食・携帯電話等の使用を禁止いたします。 以上の様な行為により、他の人に迷惑をかける方は教室外に出させていただきます。						
参考文献	『サービス接客検定受験ガイド 2級』 財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版 改訂版						

授業科目	美容基礎技術 I Basic Hairstyling Skills I						
開講年次	1 年前期	単位	4 単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、趙智順、及川麻衣子、加藤宏美、下家由起子 他						
テキスト	『美容技術理論 1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	国家試験の合格に主眼を置きながら、“サロンの現場”を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。						
授業概要	美容に関する基礎的理論と知識を学び、学習をとおして基本技術を効率的に習得する。 前期には主にワインディング技術(パーマメント技術におけるロッド巻き)とネイル技術を、また後期にはワインディング技術に加え、ヘアセッティング技術の基礎、並びにシャンプー技術を学び、美容に対する興味を深めるべく礎を築いていく。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	美容技術を学ぶにあたって	美容技術の教育カリキュラムの説明および諸注意					
3~4	美容用具について	美容用具の確認と名称					
5~6	美容における頭部区分と名称	美容用具の取り扱い方説明					
7~8		頭部ブロッキング					
9~10	ヘアカッティング	カットの基礎知識とシザーアクション					
11~12		モデルウィッグ(ヘアセッティング用)のカット実践の技術、実践(クラウン部分)					
13~14		モデルウィッグ(ヘアセッティング用)のカット実践の技術、実践(フロント・ネープ部分)					
15~16		モデルウィッグ(ワインディング用)のカット実践の技術、実践					
17~18	ワインディング(ロッド巻)	基本技術、実践(10 ブロッキングの展示、実践)					
19~20	ワインディング	基本技術、実践(スライス、コーミングの展示、実践)					
21~22		基本技術、実践(上巻き展示、実践)					
23~24		基本技術、実践(下巻き展示、実践)					
25~26		基本技術、実践(センター部分)					
27~28		基本技術、実践(バックサイド部分)					
29~30		基本技術、実践(フロントサイド部分)					
31~32		全頭 60 分					
33~34		全頭 60 分					
35~36		全頭 55 分(前回より 5 分タイムアップ)					
37~38		全頭 55 分					
39~40		全頭 50 分(前回より 5 分タイムアップ)					
41~42		全頭 50 分					
43~44		全頭 50 分					
45~46		全頭 50 分					
47~48		全頭 50 分					
49~50		全頭 50 分					
51~52		全頭 50 分					
53~54	全頭 50 分						
55~56	レベルチェック(全頭 50 分)(ブロッキングタイム 5 分)						
57~58	全頭 45 分(前回より 5 分タイムアップ)						

59~60	ワインディング	全頭 45 分
61~62		全頭 45 分
63~64	ネイル技術	ネイルケア展示
65~66		ネイルケア実践
67~68	ワインディング	全頭 40 分(前回より 5 分タイムアップ)
69~70		全頭 40 分
71~72	ネイル技術	ネイルケア復習、ハンドマッサージ展示
73~74		ネイルケア、ハンドマッサージ実践(相モデル)
75~76	ワインディング	全頭 40 分
77~78		全頭 35 分(前回より 5 分タイムアップ)
79~80	ネイル技術	ネイルケア、ハンドマッサージ復習、カラー展示
81~82		カラー実践(相モデル)
83~84	ワインディング	全頭 35 分
85~86		全頭 35 分
87~88	ネイル技術	ネイルケア、カラー(相モデル)
89~90		ネイルケア、カラー(相モデル)
91~92	ワインディング	全頭 35 分
93~94		レベルチェック(全頭 35 分)(ブロッキングタイム 4 分)
95~96	ネイル技術	カラー(相モデル)、リペア展示
97~98		リペア実践
99~100	ワインディング	全頭 30 分(前回より 5 分タイムアップ)
101~102		全頭 30 分
103~104	ネイル技術	ネイルアート、スカルプチュアなど展示
105~106		ネイルアート実践
107~108	ワインディング	全頭 30 分
109~110		全頭 30 分
111~112	ネイル技術	ネイルケア、カラーテスト(各 30 分)(相モデル)
113~114		ネイルケア、カラーテスト(各 30 分)(相モデル)
115~116	ワインディング	全頭 30 分
117~118		全頭 30 分
119~120		前期末テスト(全頭 30 分)(ブロッキングタイム 3 分)
到達目標	国家試験課題であるワインディングを基準に美容技術の基礎を身につける。	
評価方法	1. 出席状況 2. 授業態度 3. 期末テスト	
履修上の注意	欠席があると再履修もしくは卒業不可	
参考文献		

授業科目	美容基礎技術Ⅱ Basic Hairstyling SkillsⅡ						
開講年次	1年後期	単位	4単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、趙智順、及川麻衣子、加藤宏美、下家由起子 他						
テキスト	『美容技術理論1・2』 日本理容美容教育センター編 2010 美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	国家試験の合格に主眼を置きながら、“サロンの現場”を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。						
授業概要	美容に関する基礎的理論と知識を学び、学習をとおして基本技術を効率的に習得する。 前期には主にワインディング技術(パーマメント技術におけるロッド巻き)とネイル技術を、また後期にはワインディング技術に加え、ヘアセッティング技術の基礎、並びにシャンプー技術を学び、美容に対する興味を深めるべく礎を築いていく。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目		内 容				
1~2	パーマメントウェーブ		2 浴式コールドウェーブの施術法の説明、展示				
3~4			2 浴式コールドウェーブの施術法の理解、練習				
5~6			2 浴式コールドウェーブの施術				
7~8	ワインディング		全頭 30 分 (ブロック込み)				
9~10							
11~12	指圧マッサージ		基礎理論・技術展示、実践 (ヘッドマッサージ)				
13~14	まとめ髪 (基礎)		道具の使い方・ゴムの使い方 (一束髪)・ピニングのしかた・バックコーミングの基本 展示、実践				
15~16	ワインディング		全頭 28 分 (ブロック込み)				
17~18							
19~20	指圧シャンプー		プレーンリンシング 展示、実践				
21~22	ヘアブレイド		三つ編み (表・裏)、編み込み (表・裏)、その他				
23~24	ワインディング		全頭 27 分 (ブロック込み)				
25~26							
27~28	指圧シャンプー		シャンプーイング (ファーストシャンプー) 展示、実践				
29~30	ヘアエクステンション		ブレイドタイプ				
31~32	ワインディング		全頭 26 分 (ブロック込み)				
33~34							
35~36	指圧シャンプー		シャンプーイング (セカンドシャンプー) 展示、実践				
37~38	ヘアセッティング		ローラーコントロール (オリジナルセット)				
39~40	ワインディング		全頭 25 分 (ブロック込み)				
41~42							
43~44	指圧シャンプー		ヘアトリートメント 展示、実践				
45~46	ヘアセッティング		ローラーコントロール (リセット:仕上げ)				
47~48	ワインディング		全頭 25 分 (ブロック込み)				
49~50							
51~52	指圧シャンプー		シャンプーイング (フル)				
53~54	ワインディング		相モデル (3人1組)によるワインディングの実践①				
55~56	ワインディング		全頭 25 分 (ブロック込み)				
57~58							
59~60	指圧シャンプー		シャンプーイング技術チェック				
61~62	ワインディング		相モデル (3人1組)によるワインディングの実践②				

63~64	ワインディング	レベルチェック(全頭25分、ブロッキング込み)
65~66	ワインディング	全頭23分(ブロッキング込み)
67~68	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(ワンストローク) 展示、ビデオ、実践
69~70	ワインディング	全頭23分(ブロッキング込み)
71~72	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック4線1, 2線目) 展示、実践
73~74	ワインディング	全頭23分(ブロッキング込み)
75~76	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック4線3, 4線目) 展示、実践
77~78	ワインディング	全頭22分(ブロッキング込み)
79~80	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック4線、クロッキノールカールまで) 展示、実践
81~82	ワインディング	全頭22分(ブロッキング込み)
83~84	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック4線)
85~86	ワインディング	全頭22分(ブロッキング込み)
87~88	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(バック4線)
89~90	ワインディング	レベルチェック(全頭22分、ブロッキング込み)
91~92	ヘアセッティング	レベルチェック(バック4線、20分)
93~94	ワインディング	全頭21分(ブロッキング込み)
95~96	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ(ノーパートオールウェーブ) 展示、ビデオ、実践
97~98	ワインディング	全頭21分(ブロッキング込み)
99~100	ヘアセッティング	ノーパートオールウェーブ
101~102	ワインディング	全頭21分(ブロッキング込み)
103~104	ヘアセッティング	ノーパートオールウェーブ
105~106	ワインディング	全頭20分(ブロッキング込み)
107~108	ヘアセッティング	ノーパートオールウェーブ
109~110	ワインディング	全頭20分(ブロッキング込み)
111~112	ヘアセッティング	ノーパートオールウェーブ
113~114	ワインディング	全頭20分(ブロッキング込み)
115~116	ヘアセッティング	ノーパートオールウェーブ
117~118	ワインディング	学年末テスト(全頭20分ブロッキング込み)
119~120	ヘアセッティング	学年末テスト(ノーパートオールウェーブ30分)
到達目標	国家試験課題であるワインディングを基準に美容技術の基礎を身につける。	
評価方法	1. 出席状況 2. 授業態度 3. 期末テスト	
履修上の注意	欠席があると再履修もしくは卒業不可	
参考文献		

授業科目	美容基礎技術Ⅲ Basic Hairstyling SkillsⅢ						
開講年次	2年前期	単位	2単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、趙智順、秋田留美、及川麻衣子、伊藤久子 他						
テキスト	美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	国家試験の一環として、実技試験の課題を徹底的に反復練習する。各技術のレベルチェック（技術評価）を定期的実施し、科学的な分析により評価基準に適合した能力別の指導を推進していく。						
授業概要	第1課題ノーパートオールウェーブ（A・W）の基礎知識、技術、プロセスの修得。 ワインディング（W・D）技術は、サロンワークの基本作業である為、必須技術とし、上級、応用において施行する。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	レベルチェック	A・W 30分					
3~4	第1課題 A・W、 W・D（オールパーパス）	ノーパートオールウェーブ、スカルプチュアカール展示(左巻、右巻)					
5~6		W・D全頭19分（ブロッキング込み）					
7~8		スカルプチュアカール復習、リフトカール展示(左巻、右巻)					
9~10		W・D全頭19分（ブロッキング込み）					
11~12		フィンガーウェーブ、スカルプチュアカール、リフトカール復習					
13~14		W・D全頭19分（ブロッキング込み）					
15~16		ノーパートオールウェーブ、メイポールカール展示(左巻、右巻)練習					
17~18		W・D全頭19分（ブロッキング込み）					
19~20		メイポールカール復習、ノーパートオールウェーブ(国家試験課題)					
21~22		W・D全頭19分（ブロッキング込み）					
23~24		ノーパートオールウェーブ(国家試験課題)					
25~26		W・D全頭19分（ブロッキング込み）					
27~28		ノーパートオールウェーブ(国家試験課題)					
29~30		レベルチェック	A・W 30分 W・D 19分				
31~32	第1課題 A・W、 W・D（オールパーパス）	A・Wタイムアップ28分		W・D 19分			
33~34		A・Wタイムアップ27分		W・D 19分			
35~36		A・Wタイムアップ26分		W・D 19分			
37~38		A・Wタイムアップ25分		W・D 19分			
39~40		A・W 25分		W・D 19分			
41~42		A・W 25分		W・D 19分			
43~44		A・W 25分		W・D 19分			
45~46		A・W 25分		W・D 19分			
47~48		A・W 25分		W・D 19分			
49~50		A・W 25分		W・D 19分			
51~52	A・W 25分		W・D 19分				
53~54	A・W 25分		W・D 19分				
55~56	前期末テスト	A・W 25分 W・D 19分					
57~58	前期復習	A・W 25分 W・D 19分					
59~60		A・W 25分 W・D 19分					
到達目標	国家試験合格レベルを目標とした指導をし、美容師免許を取得する。						
評価方法	出席状況、レベルチェック、期末テストの総合。						
履修上の 注 意	遅刻、欠席の皆無、受講態度の重視。						
参考文献							

授業科目	美容基礎技術Ⅳ Basic Hairstyling SkillsⅣ						
開講年次	2年後期	単位	4単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、秋田留美、趙智順、及川麻衣子、伊藤久子 他						
テキスト	美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 美容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	国家試験の一環として、実技試験の課題を徹底的に反復練習する。各技術のレベルチェック（技術評価）を定期的に行い、科学的な分析により評価基準に適合した能力別の指導を推進していく。						
授業概要	第1課題オールウェーブ（A・W）、ワインディング（W・D）の美容実習Ⅰでの技術習得の再確認を踏まえ、タイムアップをはかる為の応用技術の教授。 第2課題ヘアー・カットにおいては、実習Ⅱで修得した技術を基とし、さらに応用技術を導入し、本学ならではのプロセスにより、有効的な指導を教授する。 国家試験課題（第1課題・第2課題）の完成化。						
時間外学習	学んだ技術を予習・復習し練習する。実習内容を「実習ノート」にまとめる。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1～2	レベルチェック	W・D 20分					
3～4	ワインディング（オールパーパス）	W・D 19分以内での定着。					
5～6							
7～8							
9～10							
11～12	ワインディング（オールパーパス）	W・D 19分 時間内での技術向上 反復練習					
13～14							
15～16							
17～18							
19～20							
21～22							
23～24							
25～26							
27～28							
29～30							
31～32	レベルチェック	W・D 19分					
33～34	第1課題 W・D	構成確認、展示 実践 W・D 25分					
35～36		W・D 25分					
37～38		W・D 20分					
39～40		W・D 20分					
41～42		W・D 20分					
43～44	卒業判定試験	W・D 20分					
45～46	第1課題	課題発表に伴う課題のみ施行					
47～48							
49～50	レベルチェック	第1課題					
51～52	第1課題	同上。消毒器配布					
53～54		プロセスの再確認及び各減点ポイントのチェック。消毒器の使い方。					
55～56		模擬練習。衛生面の注意、準備時間からの練習。					
57～58							
59～60							

61~62	第1課題 A・W、W・D	レベル別によるクラス分けでの指導。
63~64		
65~66		
67~68	第2課題カット	A・Wタイムアップ 23分 W・D (第1課題)
69~70		反復練習
71~72		課題説明、プロセス、施行展示。 ビデオ W・D (第1課題)
73~74	レベルチェック	ブロッキングの説明。実施練習
75~76		上記復習 W・D (第1課題)
77~78		セクション別による設定角度の確認
79~80		上記復習 W・D (第1課題)
81~82		カット実践 フロント、サイド。
83~84		上記復習 W・D (第1課題)
85~86		カット実践 ネープ、バック。
87~88		上記復習 W・D (第1課題)
89~90		プロセス確認
91~92		全頭復習 第1課題
93~94		各セクションごとの技術の復習
95~96		全頭 30分 第1課題
97~98		反復練習
99~100		反復練習 第1課題
101~102		タイムアップ 25分
103~104		仕上げのスタイリングの仕方展示 第1課題
105~106		仕上げ込み 25分
107~108		タイムアップ 23分 第1課題
109~110		同上
111~112		カット 23分
113~114	後期末テスト	タイムアップ 20分 国家試験に向かったの指導対策の説明
115~116		冬季休暇期間のレベル維持の指導
117~118		課題復習
119~120		カット 20分
到達目標	国家試験合格レベルを目標とした指導をし、美容師免許を取得する。	
評価方法	出席状況、レベルチェック、期末テストの総合。	
履修上の注意	遅刻、欠席の皆無、受講態度の重視。	
参考文献		

授業科目	カット&カラー I Haircutting and Hair Coloring I						
開講年次	1年後期	単位	2単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	平田 昌義、荒井 典子 他						
テキスト	『HAIR SCULPTURE LADIES VOLUME I・II』 『COLOR DESIGN』 PIVOT POINT						
教育目標 ねらい	ピボットポイントシステムによりカットの基礎的技術を幾何学的に理論と技術の習得を行う。 カッティング技術の基礎理論と技術と同時にヘアカラーリングの基礎理論と技術を重点的に習得する。						
授業概要	ピボットポイントにおける専門用語、理論を理解し、カット技術に結びつけることができるよう習得していく。 また、カラー剤の特徴を把握し、カラー技術を行うことができるように学ぶ。						
時間外学習	毎回のカット・カラーリング工程を予習し、カットの場合はセオリーアセスメントを作成すること。						
授業計画							
回	項目		内容				
1~2	CHAPTER	1~7	カット理論/シザーズの扱い方・シザーズ開閉/ブラシの扱い方				
3~4							
5~6	CHAPTER	16, 17	理論/ソリッドフォーム：水平/エアフォーム				
7~8							
9~10	CHAPTER	24, 26	ソリッドフォーム：ダイアゴナルレフト/ダイアゴナルライト				
11~12							
13~14	CHAPTER	28, 34	ソリッドフォーム：ダイアゴナルバック/フォワード				
15~16							
17~18	CHAPTER	36, 37, 40	理論/グラデュエーテッドフォーム：ダイアゴナルライト/水平				
19~20							
21~22	CHAPTER	39, 44	グラデュエーテッドフォーム：ダイアゴナルフォワード/ダイアゴナルバック				
23~24							
25~26	CHAPTER	48	グラデュエーテッドフォーム：パーティカル 水平 ダイアゴナルバック				
27~28							
29~30	CHAPTER	51, 52, 53, 54	理論/インクリースレイヤードフォーム：水平/パーティカル/レザー				
31~32							
33~34	CHAPTER	58, 62, 64	インクリースレイヤードフォーム：ダイアゴナルフォワード/パーティカル/水平				
35~36							
37~38	CHAPTER	73, 74, 75	理論/ユニフォームリーレイヤードフォーム：パーティカル				
39~40							
41~42	CHAPTER	1~5, 8, 11 (カラー①)	ヘアカラー理論/酸性カラースウォッチ作り				
43~44							
45~46	CHAPTER	8, 13 (カラー②)	理論/アルカリカラースウォッチ作り				
47~48							
49~50	CHAPTER	8, 12, 16 (カラー③)	理論/ブリーチスウォッチ作り/ダブルプロセステクニック				
51~52							
53~54	CHAPTER	15, 17 (カラー④)	1タッチ塗布/ウィービングテクニック (シングルフォルト)				
55~56							
57~58	CHAPTER	19 (カラー⑤)	白髪染め：リタッチテクニック (①毛先 ②根元)				
59~60							
到達目標	ピボットポイントの専門用語が理解でき、スタイルを作り上げる行程を理解し、技術を行う事が出来るようになる。 カラー剤の種類・基礎知識・基本技術が出来るようになる。						
評価方法	出席状況・授業態度・作品評価・期末試験・プリント提出						
履修上の 注意	遅刻・欠席があると再履修もしくは卒業不可						
参考文献							

授業科目	カット&カラーⅡ Haircutting and Hair Coloring Ⅱ						
開講年次	2年前期	単位	2単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	平田 昌義、荒井 典子 他						
テキスト	『HAIR SCULPTURE LADIES VOLUME I・II』 『COLOR DESIGN』 PIVOT POINT						
教育目標 ねらい	カットの基礎的技術をピボットポイントシステムにより、幾何学的に理論と技術の習得を行う。 カット&カラーⅠの授業の応用理論・応用技術を習得し、より完成度の高い技術を学ぶ。						
授業概要	ヘアカットデザインを踏まえた上でカラーリング技術を行い、応用としての範囲を広げ、ヘアスタイルを作りあげていく。						
時間外学習	毎回のカット・カラーリング工程を予習し、カットの場合はセオリーアセスメントを作成すること。						
授業計画							
回	項目			内容			
1~2	CHAPTER	16, 21, 29		理論/ソリッドフォーム：水平/ダイアゴナルバック			
3~4							
5~6	CHAPTER	35		ソリッドフォーム：ダイアゴナルフォワード			
7~8							
9~10	CHAPTER	36, 43		理論/グラデュエーテッドフォーム：ダイアゴナルフォワード			
11~12							
13~14	CHAPTER	45, 46		グラデュエーテッドフォーム：コンベックス/ダイアゴナルバック			
15~16							
17~18	CHAPTER	49		グラデュエーテッドフォーム： バーティカル 水平 ダイアゴナルバック			
19~20							
21~22	CHAPTER	51, 56		理論/インクリースレイヤードフォーム バーティカル			
23~24							
25~26	CHAPTER	59		インクリースレイヤードフォーム：ダイアゴナルフォワード			
27~28							
29~30	CHAPTER	66		インクリースレイヤードフォーム：プラナーコンビジョン			
31~32							
33~34	CHAPTER	73, 76		理論/ユニフォームリーレイヤードフォーム： 水平 バーティカル ピボタル			
35~36							
37~38	CHAPTER	33, 36	(カラー①)	理論/全頭ウィービング (ダブルフォルト)			
39~40							
41~42	酸性カラーリング	(カラー②)		1タッチ塗布			
43~44							
45~46	CHAPTER	29, 30	(カラー③)	理論/ゾーンパターン, ウィービングテクニック			
47~48							
49~50	CHAPTER	20, 24	(カラー④)	理論/全頭スライシング			
51~52							
53~54	期末実技試験	(カット)		1スタイル、カット技術を行う ※スキンヘッド・刈り上げ不可			
55~56							
57~58	期末実技試験	(カラー⑤)		前回カット技術試験を行ったウィッグを使用し、カラーリングを行う ※カラー剤塗布～スタイリングまで			
59~60							
到達目標	ピボットポイントの専門用語が理解でき、スタイルを作り上げる行程を理解し、技術を行う事が出来るようになる。ヘアカットデザインを踏まえた上でカラーリング技術を行い、応用としての範囲を広げ、ヘアスタイルを作り上げられるようになる。						
評価方法	出席評価・授業態度・作品評価・期末試験・プリント提出						
履修上の 注意	遅刻・欠席があると再履修もしくは卒業不可						
参考文献							

授業科目	美容応用技術 Application Skills of Hairstyling						
開講年次	2年前期	単位	3単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤 圭子 他						
テキスト	『信竜淳二のアップスタイル』 信竜淳二 著 新美容出版 1977 他						
教育目標 ねらい	今までに習得した技術を土台として、サロンでの実践力を養う為に、サロンの現場を主体とした基礎知識、技術を習得し、創造性、感性の向上を目的とする。						
授業概要	実際にサロンで即、実践力として使える為のサロンワークの基礎技術、知識等の教授。又、一線で活躍している現役美容師の講師を迎え、より有効的な指導を教授する。						
時間外学習	試験課題の復習としてまとめ髪作品を提出する。						
授 業 計 画							
回	項 目			内 容			
1~2	指圧マッサージの基礎知識			大脳皮質反応点の刺激区の名称及び指圧法			
3~4	アップヘアスタイル理論			アップヘアスタイル基礎知識			
5~6	指圧マッサージの技術			技術のプロセス（17通りの施術法） 施術ポイント			
7~8	アップヘアスタイル基礎技術（復習）			コーム、ブラシ等道具の使い方、一束髪、黒ゴムの使い方			
9~10	指圧マッサージの知識テスト			筆記テスト			
11~12	アップヘアスタイル基礎技術（復習）			バックコーミングの基本、応用			
13~14	指圧シャンプー理論			施術の一例、タオル、クロスの扱い方。ブラッシング。展示			
15~16	ブレイド基礎（復習）			三つ編み（表・裏）、編みこみ（表・裏）			
17~18	指圧シャンプー実技（復習）			プロセス確認。 相モデル			
19~20	ブレイド応用Ⅰ			笹あみ、フィッシュボーン、ツイスト（左・右）			
21~22	指圧シャンプー			実践			
23~24	ブレイド応用Ⅱ			タイトロープ（左・右）、エスカルゴ、その他			
25~26	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／泡の立て方			
27~28	ブレイドテスト			自由制作（40分）			
29~30	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／ワンシャン展示。実践			
31~32	アイロンテクニック			アイロンの使い方、基本、デモンストレーション、実践			
33~34	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／ワンシャン復習。			
35~36	アイロンテクニック			復習（全頭）			
37~38	指圧シャンプー／バックシャンプー			リンス剤塗布の仕方展示。実践			
39~40	アップダウンヘア			デモンストレーション、実践			
41~42	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／リンス剤復習。			
43~44	アップダウンヘア 復習			仕上げのテクニック基本			
45~46	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／タオルドライ、ターバンの仕方展示。実践			
47~48	アップダウンヘア 応用			仕上げのテクニック応用			
49~50	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／タオル施術復習			
51~52	ワンロールスタイル			ブロッキング、プロセスの説明、作品デモ、実践			
53~54	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／ツーシャン展示。実践			
55~56	ワンロールスタイル			逆毛のたて方からフロントのつくり方			
57~58	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／ツーシャン復習			
59~60	ワンロールスタイル			ワンロールのつくり方、両サイド・ネープのつなぎ方			
61~62	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践／ツーシャン、タオルドライまで復習			
63~64	ワンロールスタイル 復習			復習（全頭40分）			
65~66	指圧シャンプー／バックシャンプー			実践			
67~68	ワンロールスタイル 復習			復習（全頭40分）			

69~70	指圧シャンパー／バックシャンパー	実践（タイム内）
71~72	ワンロールスタイル テスト	40分間
73~74	指圧シャンパー／バックシャンパー	実践（タイム内）
75~76	夜会巻	ブロッキング、プロセスの説明、作品デモ、実践
77~78	指圧シャンパー／バックシャンパー	実践（タイム内）
79~80	夜会巻	全頭
81~82	指圧シャンパー／バックシャンパー	実践(タイム内)
83~84	夜会巻	全頭（40分）
85~86	指圧シャンパー テスト① バックシャンパー テスト①	テスト 25分／テスト 25分
87~88	夜会巻 テスト	40分間
89~90	指圧シャンパー テスト② バックシャンパー テスト②	テスト 25分／テスト 25分
到達目標	サロンワークでの実践力を身につける。	
評価方法	出席状況、各テスト結果の総合	
履修上の 注 意	遅刻、欠席の皆無、受講態度の重視	
参考文献		

授業科目	メイクアップ I Make-up I						
開講年次	1 年前期	単位	2 単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	ティミー西村、時田 真澄 他						
テキスト	『美容技術理論』日本理容美容教育センター編 2010 『メイクアップ I テキスト』公文裕子、時田真澄 著						
教育目標 ねらい	メイクアップの基礎篇として技術やテクニックは勿論のこと、ヘアメイクアップアーティストとして必要不可欠なセンス・創造性・表現法等を学び、本学の教育理念「美道の五大原則」を根底に、トータルビューティスペシャリストとしてのテクニックを研究・練磨する。						
授業概要	メイクアップ I では、基礎化粧品の使い方から基礎的なメイクアップの手順と理論を学ぶ。フェイスマッサージ、好感度を上げるナチュラルメイクアップや一般的なフォーマルメイクアップなど、サロンで通用するメイクアップの技術を習得する。						
時間外学習	実習授業でのメイクアップ作品をデッサンし、作品写真を添付し提出する。 4 月中に、配布された化粧品を試し、正しい使用法を理解する。 ファッション誌に目をとおしトレンドを把握する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	教材配布	美粧（メイクアップ）I の概要、メイクアップの必要性と意義					
3~4	化粧史	化粧のルーツと文化を研究する 講義					
5~6	皮膚のメカニズムと基礎化粧品	肌のタイプとメカニズム、スキンケア、メイクアップの分類					
7~8	スキンケア①	講義・演習・実習					
9~10	スキンケア②とフェイスマッサージ	クレンジング～フェイスマッサージ					
11~12		講義・演習・実習					
13~14	スキンケア③とフェイスプロポーション	クレンジング～メイクアップベース					
15~16		フェイスプロポーション 講義・演習・実習					
17~18	ベースメイクアップ①	クレンジング～メイクアップベース					
19~20		コントロールカラーとコンシーラー、ファンデーション、フェイスパウダー 講義・演習・実習					
21~22	ベースメイクアップ②	クレンジング～フェイスパウダー					
23~24		ハイライト・シャドウ 講義・演習・実習					
25~26	ポイントメイクアップ②	ベースメイクアップ～					
27~28		アイメイクアップ、アイブロウ 講義・演習・実習					
29~30	ポイントメイクアップ②	ベースメイクアップ～アイメイクアップ					
31~32		リップ・チーク・フィニッシング 講義・演習・実習					
33~34	トータルメイクアップ①	ポイントメイクアップのパターン①、トータルメイクアップ					
35~36		講義・演習・実習					
37~38	トータルメイクアップ②	ポイントメイクアップのパターン②、トータルメイクアップ					
39~40		演習・実習					
41~42	トータルメイクアップ③	色彩とメイクアップ、トータルメイクアップ					
43~44		演習・実習					
45~46	パーティーメイクアップ	イブニングドレスのメイクアップ					
47~48		講義・演習・実習					
49~50	トータルメイクアップ実技試験	ベースメイクアップ～フィニッシングまでの実技試験					
51~52		講義・演習・実習					
53~54	和装のメイクアップ①	振袖のメイクアップ					
55~56		講義・演習・実習					
57~58	模写メイクアップ	流行のメイクアップを模写する					
59~60		講義・実習					
到達目標	メイクアップの基礎から理論と実習と共にナチュラルメイクアップを学ぶ。						
評価方法	1. 出席評価 2. 人物評価 3. 作品提出評価 4. 実技テスト 5. 筆記試験等の合計評価とする。						
履修上の 注 意	メイクアップ I は法定科目に含まれるため、欠席や履修態度により再履修となる。 メイクアップ I が再履修となった場合、メイクアップ II（選択必修科目）は履修できない。						
参考文献	国内外の各社 美容技術誌・その他、美容作品や記事を紹介し、研究する。						

授業科目	伝承美（着装） Traditional Art (Kimono Dressing)						
開講年次	1年通年	単位	4単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	新藤 愛子、佐藤 美奈子 他						
テキスト	『着物着つけ教本』山野流着装教室 第14版 2010 『美容技術理論2』日本理容美容教育センター編 2010						
教育目標 ねらい	1. 日本の伝承美、着装及び着物について基本知識を習得させ、生活の中に関わる冠婚葬祭及び通過儀礼時の着装について理解させる。 2. 四季に応じた装いと着物、帯、小物などの組み合わせ方によるコーディネイトと装いの表現力、山野流美道のトータルビューティーについて習得させる。 3. 人に着つける。自分で着る。着つけと帯結びの基本技術を習得させる。						
授業概要	伝承美着装を学ぶに当たり、マナーとスマイルを身につける。 “日本の心を着る”という豊かな感性と人を思いやる心を育て、各授業テーマに関する知識を講義・着つけ技術展示指導と実技着つけ実習を行う。						
時間外学習	学内外の着つけコンテスト、学内実技試験の日程に合わせ、授業時間外の自己学習期間及び教員による指導期間を設けています。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	着物の名称、ゆかたと細帯の知識、 ゆかたの着つけと帯結び	平面的で直線で作られた形と、ゆかたの名称、細帯の寸法及び自分で浴衣を着ることを覚える。ゆかたのたたみ方を覚える。					
3~4							
5~6	礼装、留袖の知識：着つけ前の準備 体型作り：長襦袢の着つけ	礼装の着物を知る。着つけの必要品を覚え、半衿を長襦袢に付け手順よく準備する。女性の体型を確認し、極端な凹凸の修正法を覚える。					
7~8							
9~10	留袖の着つけと帯結び袋帯二重太鼓	二人一組で留袖を着つけ、袋帯を用いて二重太鼓を結び、仕上げる。袋帯を知る。留袖のたたみ方。長襦袢のたたみ方。袋帯のたたみ方。					
11~12							
13~14	黒留袖と色留袖について：留袖の着 つけと二重太鼓	留袖の種類を知る。染められた家紋の数と位置による格。					
15~16							
17~18	年代別留袖の表情と身のこなし総合 美	着る人にふさわしい装いに着つける。ミセスの礼装の美しい動作も含めた総合美を表現する。					
19~20							
21~22	美容技術理論2 (和装のヘアスタイル「留袖」)	ミセスの礼装「留袖」の着つけとヘアスタイルのトータルバランス。					
23~24							
25~26	留袖の着つけと帯結び二重太鼓	更に技術を磨き、手早く着ごちの良い着つけと帯結びを復習。					
27~28							
29~30	盛装の着物と袋帯の知識：袋帯二重 太鼓の結び方	華やかな席に装う着物と、合せる袋帯を知る。小物のコーディネイト。					
31~32							
33~34	礼装留袖の知識：留袖の着つけと袋 帯二重太鼓の結び方	式典や格式ある席の装うミセスの礼装について覚える。留袖と帯結びを更に上手に着せる。					
35~36							
37~38	留袖の着つけと帯結び二重太鼓の結 び方	定められた時間に留袖と帯結びを仕上げる。					
39~40							
41~42	留袖の着つけと帯結び二重太鼓の結 び方	総仕上げ。					
43~44							
45~46	技術確認：留袖の着つけと帯結び	定められた時間に留袖と帯結びを仕上げ、技術審査を受ける。					
47~48							
49~50	ゆかたの着つけと半幅帯の結び方	男子・女子それぞれゆかたを着つけ、男子は角帯と兵児帯の結び方、女子は半幅帯を結ぶ。男物・女物について知る。					
51~52							
53~54	美容技術議論2 (p 113~124 着物と帯の種類)	礼装・四季による着分ける着物と通過儀礼の知識を学ぶ					
55~56							
57~58	細帯の結び方	街着・おしゃれ着の細帯の結び方を覚える。					
59~60							

61~62	外出着についての知識：体型作り、	街着の着物について知る。半衿を確認して着付けの準備をし、着付け必要品
63~64	外出着の着つけ	一式をそろえる。自分の体型を知り、体型づくり・着つけ。
65~66	小紋について：小紋の着つけと名古屋	小紋の着物について知る。自分で小紋の着物を着つけ、一人で名古屋帯総柄
67~68	帯全通柄の一重太鼓	の帯で一重太鼓を結ぶ。男子はボディを使用。
69~70	小紋の着つけと名古屋帯六通柄の一	着つけ復習。名古屋帯六通柄の一重太鼓を自分で結ぶ。名古屋帯お太鼓柄一
71~72	重太鼓：名古屋帯お太鼓柄一重太鼓	重太鼓を自分で結ぶ。
73~74	外出着の装い	着物を着た時のマナー・所作等を学ぶ。及び小技術テスト。
75~76		
77~78	小紋の着つけと名古屋帯一重太鼓の	着付け復習。名古屋帯お太鼓柄一重太鼓を自分で結ぶ。
79~80	結び方	
81~82	小紋の着つけと名古屋帯一重太鼓の	自分で着物を着て、名古屋帯を用いて一重太鼓を結ぶ。
83~84	結び方	
85~86	小紋の着つけと名古屋帯一重太鼓の	復習。
87~88	結び方	
89~90	自分で着る小紋の着つけと名古屋帯	復習・総仕上げ。
91~92	一重太鼓の結び方	
93~94	技術確認：自分で着る小紋の着つけ	定められた時間に自分で着つけ、帯結びを仕上げ、技術審査を受ける。
95~96	と帯結び	
97~98	振袖の知識：半衿の確認、長襦袢、	女子の礼装、振袖について知る。着つけの準備から振袖を人に着せる。
99~100	振袖の着つけと帯結び	
101~102	振袖の着つけと帯結びのバランス	振袖の着つけ復習。帯結びのバランスの計り方を覚える。
103~104		
105~106	美容技術理論 2	日本の和装の花嫁衣裳の種類と付属品と衣装一式。振袖色直し衣装と着物を
107~108	(ブライダルに見る現代の和装)	
109~110	着つけの応用	車イス利用者のための着物着つけ。他
111~112		
113~114	知識確認	基礎を理論的に理解したかどうかの確認。
115~116		
117~118	男子の礼装・男子の着物と装い	男子の礼装・紋服の知識。紋付、羽織袴の着つけ・女子の袴の着つ
119~120	女子の袴	
到達目標	美容師として業務における着つけを、目的に応じて行える着つけ技術を養う。	
評価方法	1. 出席 (50%) 2. 実技試験 (30%) 3. 筆記試験 (15%) 4. 小テスト (5%)	
履修上の注意	着装実技に必要な衣装は大学備品を貸与、着つけ技術に必要な教材、着つけ小物は配布 個人持参品 タオル5本 筆記用具 実習着、ソックス着用、着物着用時は、女子は前後共衿開き大きいシャツ、タンクトップ、五分・七分スパツ、ペチコートなど、男子は前開きV字型シャツ、ランニングシャツ、に短パン	
参考文献		

授業科目	フェイシャルエステ Aesthetic Salon Techniques (Facial)						
開講年次	1年後期	単位	3単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	鈴木 ひろ子、三谷 玲子						
テキスト	『新エステティック学』 日本エステティック協会教育研究委員会 編 配布資料による						
教育目標 ねらい	エステティシャンとしての基礎技術、理論を修得し、施術の目的を理解したうえで実践する能力を身につける。						
授業概要	日本エステティック協会認定フェイシャルエステティシャン資格取得に向け、協会の内容に沿って学習する。						
時間外学習	学習した技術や手順の再確認をし、理解度を深める。						
授業計画							
回	項目		内容				
1~2	エステティック概論(1)		エステティックの本質・歴史と現況				
3~4	フェイシャルエステティック		ハンドクレンジング				
5~6							
7~8	エステティック概論(2)		エステティックに関する法律				
9~10	フェイシャルエステティック		ブラシクレンジング				
11~12							
13~14	エステティック概論(3) エステティック機器学(1)		法律に関するエステティシャンの倫理 エステティック機器学とエステティック技術、エステティック機器の原理				
15~16	フェイシャルエステティック		ウッドランプ・スキンチェック				
17~18							
19~20	エステティック機器学(2)		エステティック機器の種類と特徴				
21~22	フェイシャルエステティック		ディーブクレンジング				
23~24							
25~26	エステティック機器学(3)		エステティック機器を使用するための電気の基礎知識				
27~28	フェイシャルエステティック		サクション				
29~30							
31~32	エステティック機器学(4)		いろいろなエステティック機器の特徴と使用法				
33~34	フェイシャルエステティック		フェイシャルマッサージ①				
35~36							
37~38	エステティック技術(1)		フェイシャルケアについて				
39~40	フェイシャルエステティック		フェイシャルマッサージ②				
41~42							
43~44	エステティック技術(2)		フェイシャルケアの流れ(カウンセリングからアフターカウンセリングまで)				
45~46	フェイシャルエステティック		フェイシャルマッサージ③				
47~48							
49~50	エステティック技術(3)		フェイシャルケアの技術①				
51~52	フェイシャルエステティック		フェイシャルマッサージ④+デコルテ				
53~54							
55~56	エステティック技術(4)		フェイシャルケアの技術②				
57~58	フェイシャルエステティック		フェイシャルマッサージ⑤+デコルテ+スチームタオル				
59~60							
61~62	エステティック技術(5)		エステティックフェイシャル機器①				
63~64	フェイシャルエステティック		パック				
65~66							
67~68	エステティック技術(6)		エステティックフェイシャル機器②				

69~70	フェイシャルエステティック	クライアントに合わせたプログラム作成①
71~72		
73~74	フェイシャルエステティック	クライアントに合わせたプログラム作成②
75~76		
77~78		
79~80	フェイシャルエステティック	クライアントに合わせたプログラム作成③
81~82		
83~84		
85~86	フェイシャルエステティック	実技試験
87~88		
89~90		
到達目標	エステティシャンとしてフェイシャルの基礎知識、技術、マナーを学び、フェイシャルケアの意味と目的を理解する。	
評価方法	①出席状況 ②実技試験 ③筆記試験	
履修上の注意	特に出席状況注意。 状況により2年次選択必修科目<エステティック総合Ⅰ,Ⅱ>の履修資格を失うこととなる。	
参考文献	『美容技術理論2』 日本理容美容教育センター編 2010	

授業科目	ネイル Nail Techniques						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	及川麻衣子、加藤宏美、酒井朋恵 他						
テキスト	配布資料による						
教育目標 ねらい	美容師としての理論、技術の他にネイルの理論、基礎を学ぶことにより、視野を広げ、現代のニーズに応えられる美容技術者を育成することを目的とする。						
授業概要	ネイルの基礎理論、技術（ネイルケア）						
時間外学習	学んだ基礎理論、技術の復習と練習						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	基礎理論	歴史、目的と効果、爪の構造					
3~4		名称と病気					
5~6		用具溶剤解説と注意					
7~8	ネイルケア (ウォーターマニキュア)	ハンドマッサージ					
9~10		セッティング					
11~12		ファイリング					
13~14		キューティクルケア					
15~16		カラーリング					
17~18	イクステンション（爪の造形）	ネイルチップ					
19~20	リペア（爪の修理、補強）	ネイルラップ					
21~22	検定試験内容の説明と注意	用具、セッティング、手順、減点事項等の確認					
23~24	ネイルケア練習 (ウォーターマニキュア)	セッティング 10分、ネイルケア 30分、カラーリング 30分					
25~26							
27~28							
29~30	試験	ネイルケア実技、筆記					
到達目標	ネイルの基礎的理論を理解し、ケア及び基礎技術を時間内で行う。I N Aネイル検定A級取得						
評価方法	実技試験、出席状況、授業態度						
履修上の 注 意	特に出席状況に注意、欠席があると単位修得不可となる。						
参考文献	『美容技術理論 1.2』 日本理容美容教育センター編 2010						

授業科目	美容心理学 Psychology of Aesthetics						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウェルネスデザイナー認定資格						
担当者	五十嵐 靖博						
テキスト	『美容師とビューティスタッフのための心理学』 五十嵐靖博・高島直子 編 新曜社 2010						
教育目標 ねらい	心理学は生活体の心と行動を科学的に研究する学問である。心理学が明らかにした知見は美容を含む様々な実際の場面に適用され、日常生活の福祉の向上のために活用されている。本科目では、基礎分野から応用分野にわたる心理学の知見のうち、特に美容に関連する事項について理解を深めたい。						
授業概要	心理学は日常の行動から美容に関連する諸行動まで、生活と深く関わっている。知覚やパーソナリティ、心の健康、社会的行動などの基礎的過程を説明し、美容関連行動について検討する。						
時間外学習	予習復習を十分に行うこと。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	心理学と美容	心理学とは何か、心理学からみた美容行動					
3~4	知覚と美容Ⅰ	眼の構造、錯視、多義図形					
5~6	知覚と美容Ⅱ	図と地、化粧と知覚					
7~8	自己	自己概念と美容行動					
9~10	心の健康と美容：ストレス	ストレスと心の健康					
11~12	心の健康と美容：心身症	心の状態と身体の病気					
13~14	心の健康と美容：こころの病Ⅰ	不安障害について（１）					
15~16	心の健康と美容：こころの病Ⅱ	不安障害について（２）					
17~18	心の健康と美容：こころの病Ⅲ	うつ病と統合失調症について					
19~20	心の健康と美容：こころの病Ⅳ	摂食障害とその他のこころの病について					
21~22	エステティックの心理的効果	心的効果とその測定					
23~24	よそおいの心理学Ⅰ	ひとはなぜ、いつよそおう（装う・粧う）のか					
25~26	よそおいの心理学Ⅱ	自己概念とよそおい					
27~28	小集団と行動	同調、説得、社会的役割					
29~30	まとめ	美容行動の心理学をめざして					
到達目標	心理学の基本的知見を理解し、美容に関連する行動を心理学的にとらえる視点を培う。						
評価方法	期末試験を行い評価する。 出席状況（規定時間数以上の出席を原則とする）。						
履修上の 注 意	受講態度を重視する。 特に出席状況に注意すること。						
参考文献	『化粧行動の社会心理学』 大坊郁夫 編 北大路書房 2001 『美容師のためのカウンセリング』 山野美容心理学研究会 著 ナカニシヤ出版 2009 『自分のこころからよむ臨床心理学入門』 丹野義彦・坂本真士 著 東京大学出版会 2001 『よくわかる臨床心理学』 下山晴彦 編 ミネルヴァ書房 2003						

授業科目	伝承美（茶道） Traditional Art(Tea Ceremony)						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	河原 宗孝						
テキスト	『茶の湯で学ぶ「美」』 河原宗孝 著 (株)淡交社 2008(再々版)						
教育目標 ねらい	現代の美容師には技術の修得のみならず洗練された接客マナーが必要とされている。日本伝統文化である茶道を「道・学・実」三位一体で学び、美の裏方としての人間形成に主眼をおく。中でも精神面の育成について茶道を通して築いていく。						
授業概要	一限のなかに講義と実技（点前の稽古）・呈茶を毎回組み入れる。実技は裏千家茶道の盆略点前を学習し、最後には自分でたてられるまで履修する。なお、呈茶には毎回季節を感じるお菓子をいただきながらお茶をいただく。※希望者は茶道裏千家許状が取得できます。						
時間外学習	茶道の根本精神である「和敬静寂」に則り、日々心を研く。講義の復習として、「利休七則」「歴代家元」を覚える。帛紗の捌き方を予習復習する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	入門の心得と実技	講義 入門の心得、教材の配布、許状の説明（411） 実技 お菓子、お茶のいただき方、自服					
3~4	禅語（１）と実技	講義 禅語「喫茶法」の読みと意味 自服 実技 和室にて床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方					
5~6	美容と茶道の関係についてと実技	講義 お客様が求める美容師とは 「和敬静寂」 自服 実技 和室にて割り稽古（１） 帛紗捌き					
7~8	利休遺偈についてと実技	講義 「利休遺偈」の読み方と意味、裏千家歴代宗匠（１）、自服 実技 和室にて割り稽古（２） 棗、茶杓の清め方					
9~10	ビデオ学習（１）	ビデオ「利休の茶」「愛治庵茶席抜き」 実技 自服					
11~12	開炉についてと実技	講義 炉、風炉、立札の話し 実技 割り稽古（３） 茶碗のふき方、茶巾のたたみ方、茶筌通し、自服					
13~14	愛治庵茶室での学習（１）	お茶室の勉強と感想文を書く。呈茶					
15~16	接客のマナーと実技	講義 お客様に好かれる方法 実技 盆略点前（１） 友達に点てる					
17~18	季節の感じ方と実技	講義 季節を感じる 実技 盆略点前（２） 友達に点てる					
19~20	茶室における着物、メイク、髪形について	講義 プロとして最小限知っておかなければいけないこと 実技 盆略点前（３） 友達に点てる					
21~22	禅語（２）と実技	講義 禅語「薫風自南来」の読み方と意味、裏千家歴代宗匠（２） 実技 盆略点前（４） 友達に点てる					
23~24	愛治庵茶室での学習（２）	お茶会に招かれて 呈茶					
25~26	ビデオ学習（２）	ビデオ「茶の湯自在」 実技 自服					
27~28	国際人としての教養と実技	講義 利休七則の教え、裏千家歴代宗匠（３） 茶道を学んで、新席披露、茶碗の名称、茶の湯英会話、茶の用語抄 実技 盆略点前（５） 友達に点てる					
29~30	禅語（３）筆記の総合復習と実技テスト	講義 禅語「一期一会」の読み方と意味、筆記の復習 実技 テスト（帛紗捌き、棗、茶杓の清め方） 友達に点てる					
到達目標	お茶を通して日本国民としての自覚を持ち、より良い国家形成の担い手になるよう務める。						
評価方法	筆記試験（50％）実技試験（15％）出席日数（35％）の総合評価						
履修上の 注 意	名札、腰ひも、白のソックス、髪を束ねるゴムの用意 授業欠席により、補講の対象となった学生は教材費を実費徴収します。						
参考文献	月刊誌『淡交』『なごみ』 ビデオ『利休の茶』『茶の湯自在』『愛治庵茶席抜き』						

授業科目	伝承美（華道） Traditional Art(Flower Arrangement)						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	塩原 久瞳						
テキスト	『花芸安達流演習基礎ノート「水」』 安達瞳子 著、講義中プリント配布						
教育目標 ねらい	人間形成としての精神美の更なる向上をめざし、受ける側（お客様）と与える側との違いのなかでの心配りや気配りがいかに重要課題であるか、身近に植物の生命と接しながら、こころ豊かな人間としての教養と美的感覚を身につけ、自身の役割と責任感を認識できるよう学ぶ。						
授業概要	自然界と人間界のモラルを守り、個のマナーから始まる人間形成を軸に、植物の生命と接しながら、自然のこころと一体となった精神の造形を目指します。 日本の祈りの原点でもある行事や花道史、建築空間での場作り、生活習慣の中で育まれた配色や役割等々を、一般教養として身につけ、総合美の中での精神美を多方面から見つめる講義と実習を通し、美的感覚を向上させる。下記授業計画の項目については、順序が前後する事もある。						
時間外学習	花は五感を刺激し、実習後自宅で再演習する事により「香り」は臭覚、「色や形」は視覚、「花に触れる」触覚、「花揺れの風音」や「花言葉」での対話は聴覚、「ハーブティー」を代表とする味覚等により「癒し」や「パワー」を得られる事で、心身のバランスを整えられる効果が生れる。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	大切なプロセス	マナーとしての挨拶や返答の仕方 授業態度とTPOの服装の大切さについて					
3~4	二つの図	形作りの為の構図を学びより造形物を把握する。					
5~6	素材の要素	造形要素としての線のバリエーションを髪型にどう生かすかを学ぶ。					
7~8	器の挿し口	余白の美がもたらす、髪飾りの動きと分量について。					
9~10	五つの態	植物学から見た花芸の基本の姿を如何に髪型に生かすかを学ぶ。					
11~12	役を定める文法	花芸の枝の役割と名称。行事時の小物のセッティングについて。					
13~14	私の花鉢	技術の三原則と美容との接点を学ぶ。創作器作成					
15~16	植物の体	植物の組成、節理、地理、分類を学ぶ。					
17~18	相互の力関係	花による癒しの効果。空間の三要素と四次元のつりあいについて					
19~20	全体のバランス	結果として力関係が及ぼす美的感覚を養う。					
21~22	造形上の原型	不等辺三角形と古代人の関係から無限の変化を学ぶ。					
23~24	生活芸術として	東洋の修練文化と西洋の理論文化の合体である花芸をいかに建築空間に表現するかを学ぶ。					
25~26	花束作成	襲色目の原点と贈る花への心得や花言葉による人間心理を学ぶ。					
27~28	連花	平安時代の連歌にちなみ、2人以上で一瓶の作品を生け上げることでの連帯と協調性を計る。					
29~30	花手前 or 花寄せ	お客様の前で琴や琵琶などの古代楽器の演奏とともに花を生け、美の熟してゆく流れを共有する。（和服着用のこと）					
到達目標	自身（学生）としての責任とマナーの向上を養う。						
評価方法	1. 出席状況と実習評価（出席 50%） 2. 期末試験（試験 40%） 3. 「ノート」チェック 4. 学苑祭感想文 5. 学習前後の準備と整理 （3. 4. 5 10%）						
履修上の 注 意	資格……花芸安達流入会「水」の証 免状取得可 持参……基礎演習ノート、花鉢、花布、花包（以上4点配布） 色鉛筆（赤、青、緑、黄、黒）、定規、ティッシュペーパーを毎回持参のこと。 授業欠席により、補講の対象学生は教材費を実費徴収します。						
参考文献	『花芸への道』 安達瞳子 著 榊講談社 1982 『花ばさみ』 季刊誌 年4回 花芸安達流社 『道・桜仙抄』 安達瞳子 著 榊六耀社 1994 『花・安達流の花芸』 安達育 著 榊講談社 2005 『花芸 365 日』 安達瞳子 著 榊小学館 1994 『花を生ける（花と美術）』 安達瞳子 著 （社）農文協 2004						

授業科目	美容福祉基礎論 Basic Aesthetics and Welfare						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウェルネスデザイナー認定資格						
担当者	安藤 理美						
テキスト	『改訂 美容福祉概論』 山野美容芸術短期大学 編 中央法規出版 2009						
教育目標 ねらい	高齢社会におけるこれからの美容は、サロンだけでなく、介護施設や在宅での訪問美容が新しいビジネスとして注目をされている。美容師として、お客様の状態に合わせてサービスを提供できるよう「美容福祉」の基礎的知識・技術を具体的事例・疑似体験等を通じて学ぶ。						
授業概要	高齢者や障がい者に負担の少ない実践場面を想定した基礎的美容施術に役立つ方法について学ぶ。また、介護・介助を受ける立場となった気持ちを理解するため、高齢者や障がい者の疑似体験をする。						
時間外学習	日常生活や美容室など高齢者や障がい者にとって、不自由に感じる場面を授業項目の受講前に考え、受講後に施術を受ける側と実施する側の立場を再確認する。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	美容福祉とは	美容の観点からとらえる					
3~4	美容福祉とは	福祉の観点からとらえる					
5~6	高齢者・障がい者を知る I	認知症とは					
7~8	高齢者・障がい者を知る II	状態に合わせた着脱と移動方法					
9~10	高齢者・障がい者を知る III	車椅子体験と安全な操作について					
11~12	高齢者・障がい者を知る IV	車椅子への移乗方法					
13~14	高齢者・障がい者を知る V	高齢者・障がい者体験（疑似体験グッズ使用）					
15~16	訪問美容の現状	訪問美容で提供するサービスの内容と効果					
17~18	美容技術 I	車椅子着付けについて					
19~20	美容技術 II	ベッド上でのシャンプー（ハッピーシャンプー器使用）					
21~22	美容技術 III	ベッド上でのカット（すいこ〜ム使用）					
23~24	美容技術 IV	美容室における高齢者・障がい者の対応方法					
25~26	美容技術 V	高齢者・障がい者のメイク					
27~28	リラクゼーション	香りの効果（アロマセラピーとハーブティー）					
29~30	まとめ・評価	筆記試験					
到達目標	高齢社会における基礎的な美容福祉サービスを提供できる専門職としての知識・技術を養うとともに、使命感、責任感、更に積極的な態度を身につける。						
評価方法	授業態度・出席状況（50%） 筆記試験（50%）						
履修上の 注 意	テキストは資料として使用する機会が多く、自分なりにメモ・ノート等をとること。						
参考文献	『思えば叶う』 山野正義 著 I N通信社 2000 『生きるほどに美しく』 山野正義 著 I N通信社 2003 『YES, YOU CAN』 山野正義 著 I N通信社 2007 『美容福祉概論』 山野美容芸術短期大学 編 中央法規出版 2007						

授業科目	ウエルネス&フィットネス Wellness and Fitness						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウエルネスデザイナー認定資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	早川 洋子						
テキスト	プリント						
教育目標 ねらい	<p>ここ数十年の社会生活の激変によって、日常生活の中での運動には、量的不足或いは質的な歪みが生じて、体の健康ばかりか心の健康面にも重大な負の影響が現れている。</p> <p>運動が健康に及ぼす影響は、生活習慣病、心の健康、意欲的な生活など多岐に渡っているが、この授業では、さらに健康美を創造するための運動について、その理論、方法、さらにその理論を生かして一人ひとりが生活に取り入れることができるようにすることを狙いとする。</p>						
授業概要	フィットネス&スポーツで学習した内容の理論的背景を学ぶ。またウエルネスデザイナーとしてお客様のカウンセリング時にウエルネスライフの提案に必要な知識と技術を身につける。						
時間外学習	繰り返し学習することにより、無理なく習得できます。授業前に予習としては、図書館などで健康やウエルネス、救急法、栄養学、生理学、運動生理学の図書を読んでおいてください。また必ず前回の学習内容を復習して、おいてください。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション・健康づくりの全体像/ 救急法 (止血法) 1	前半では、受講上の諸注意と運動が健康づくりの中でどのような位置を占めているか説明する。後半では止血法について説明と実践を行う。					
3~4	救急法 2	応急処置の基本を学ぶ(蘇生の連鎖、初期評価 (SETUP、バリア、声明、通報、初期評価のプロセス) 気道確保 (回復体、異物除去)、RICE)					
5~6	救急法 3	心配蘇生法の基礎を学ぶ(ログロール、CPR、チョーキングとスラスト)					
7~8	栄養学 1	栄養学の基礎 (5大栄養素、栄養素の種類、栄養価、栄養所要量)					
9~10	栄養学 2	栄養学の基礎 (エネルギー代謝率、エネルギー所要量) 食物摂取とその消化吸収 (飲食物摂取量の調節、飲食物の消化吸収)					
11~12	栄養学 3	主要食品の栄養学的意義 (食品の分類、各食品の栄養学的特徴)					
13~14	栄養学 4	健康と栄養 (栄養状態の判定、肥満、中・老年期の栄養、美容と栄養)					
15~16	栄養学 5 運動生理学 1	健康と栄養 (食品添加物、サプリメント) 運動生理学とは (運動時の呼吸器系、循環器系、筋肉の働き、トレーニングと超回復)					
17~18	運動生理学 2	運動時の代謝 (運動とエネルギー消費)、運動と加齢					
19~20	運動生理学 3	運動の効果 (生活習慣病と運動、運動と姿勢・形態の変化、運動と減量)					
21~22	運動生理学 4 生命活動とホメオスタシス 1	運動処方 (トレーニングの原理・原則、運動の種類、運動プログラム作成、運動量) 生体のホメオスタシス (免疫、神経、ホルモン)					
23~24	生命活動とホメオスタシス 2	ホメオスタシスと“ストレス”(ストレスとは、ストレス(状態)と脳					
25~26	生命活動とホメオスタシス 3	生体のホメオスタシスを維持・制御する仕組み					
27~28	ウエルネス概論	ウエルネスの定義、ウエルネスとは何か?解説を行う。現代社会におけるウエルネスの必要性やプログラムの実際について学び、さらに減量プログラムへの生かし方も学ぶ(自己変革、自己管理、自己受容など)。またデス・エデュケーション、死の準備教育、自分の死や他人の死への心構えも習得する。					
29~30	試験						
到達目標	ウエルネスデザイナーとしてお客さまにアドバイスができるような能力を身に付ける。						
評価方法	出席点 10%、定期試験 90%、授業態度+αの総合評価						
履修上の 注 意	<p>ウエルネスデザイナー必修科目</p> <p>授業の秩序を乱すものは、単位の認定を行わないことがあるので注意すること。</p> <p>※ 履修方法についてはオリエンテーション時の説明をよく聞くこと。</p> <p>* 特に授業中の化粧、私語、無断外出は厳禁</p>						

参考文献

『センシブルフィットネス』 Jack Willmore 著 1990  
『ウエルネスの理論と実践』 野崎康明 著 1994

授業科目	エステティック総合 I Synthetic Aesthetic I						
開講年次	2年前期	単位	3単位	必選	選択必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	鈴木 ひろ子、三谷 玲子						
テキスト	『新エステティック学』 日本エステティック協会教育研究委員会 編						
教育目標 ねらい	一年次で学んだことを土台としエステティック機器を取り入れたフェイシャルの応用を学ぶ。 ボディの状態を把握し、ハンドテクニック、機器を取り入れたボディトリートメント、ケアの施術内容や技術をプログラミングできる能力を修得する。						
授業概要	機器を使用したフェイシャルエステティックの応用。 ボディケア・トリートメントの基礎から応用まで。						
時間外学習	学習した技術や手順の再確認をし、理解度を深める。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	フェイシャルエステティック	フェイシャルマッサージ					
3~4							
5~6							
7~8	フェイシャルエステティック	イオン導入					
9~10							
11~12							
13~14	ボディエステティック	エステティックボディ機器(バイブレーター)					
15~16							
17~18							
19~20	ボディエステティック	ボディマッサージ①(前操作・下肢後ろ側)					
21~22							
23~24							
25~26	ボディエステティック	ボディマッサージ②(下肢後ろ側・臀部)					
27~28							
29~30							
31~32	ボディエステティック	ボディマッサージ③(腰背部)					
33~34							
35~36							
37~38	ボディエステティック	エステティックボディ機器(サクション)					
39~40							
41~42							
43~44	ボディエステティック	ボディマッサージ④(下肢、上肢前側・腹部)					
45~46							
47~48							
49~50	ボディエステティック	ボディマッサージ⑤(胸部・頸部・頭部)					
51~52							
53~54							
55~56	ボディエステティック	ボディパック					
57~58							
59~60							
61~62	ボディエステティック	ボディゴマージュ					
63~64							
65~66							

67~68		
69~70	ボディエステティック	エステティックボディ機器(低周波)
71~72		
73~74		
75~76	ボディエステティック	フルボディマッサージ
77~78		
79~80		
81~82	ボディエステティック	フルボディマッサージ
83~84		
85~86		
87~88	ボディエステティック	実技試験
89~90		
<b>到達目標</b>	エステティシャンとしての理論、基礎を学びサロンに出て即戦力として活躍できる技術、技術者としての振る舞い、心構えを学ぶことを目標とする。	
<b>評価方法</b>	①出席状況 ②実技試験 ③筆記試験	
<b>履修上の注意</b>	特に出席状況に注意すること。 ※トータルビューティーコース希望者は履修することは出来ない。	
<b>参考文献</b>	『美容技術理論2』 日本理容美容教育センター編 2010	

授業科目	エステティック総合Ⅱ Synthetic AestheticⅡ						
開講年次	2年前期	単位	2単位	必選	選択必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	鈴木 ひろ子、三谷 玲子						
テキスト	『新エステティック学』 日本エステティック協会教育研究委員会 編						
教育目標 ねらい	フェイシャルから、ボディケア、脱毛までエステティック全般を学び、理論に裏打ちされたより高度な技術や知識を身につけリーダーシップの取れる人材を育成する事を目標とする。						
授業概要	基礎をベースにプロフェッショナルとしてより高度な知識、技術をトータルに修得する。						
時間外学習	学習した技術や手順の再確認をし、理解度を深める。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	ボディエステティック技術(1)	ボディケアの目的と効果					
3~4	フェイシャルエステティック	ディーブクレンジング(エレクトロクレンジング)					
5~6							
7~8	ボディエステティック技術(2)	ボディケアの流れ(カウンセリングからアフターカウンセリング)					
9~10	フェイシャルエステティック	スチーマー					
11~12							
13~14	ボディエステティック技術(3)	ボディのマッサージテクニック					
15~16	フェイシャルエステティック	パック					
17~18							
19~20	ボディエステティック技術(4) 脱毛技術(1)	エステティックボディ機器 ワックス脱毛の目的と効果					
21~22	ワックス脱毛	ワックス脱毛 (下肢)					
23~24							
25~26	脱毛技術(2)	ワックス脱毛の流れ					
27~28	ワックス脱毛	ワックス脱毛 (上肢)					
29~30							
31~32	脱毛技術(3)	ワックス脱毛の技術、禁忌、施術テクニック					
33~34	ワックス脱毛	ワックス脱毛 (腕・脇)					
35~36							
37~38	フェイシャルエステティック	エステティックフェイシャル機器を使用したフルトリートメント					
39~40							
41~42							
43~44	フェイシャルエステティック	プログラム作成					
45~46							
47~48							
49~50	フェイシャルエステティック	実技試験					
51~52							
53~54							
55~56	ボディエステティック	フルボディトリートメント+パック					
57~58							
59~60							
到達目標	社会において第一線で活躍できる総合的な技術、理論、プロフェッショナルとしての自覚を持って施術に当たり、一流のエステティシャンとしての配慮やコミュニケーション能力を修得する。						
評価方法	①出席状況 ②実技試験 ③筆記試験						
履修上の 注 意	特に出席状況に注意すること。 ※トータルビューティーコース希望者は履修することは出来ない。						
参考文献	『美容技術理論2』 日本理容美容教育センター編 2010						

授業科目	ネイル（上級） Nail Techniques (Advanced)						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選択必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	及川麻衣子、加藤宏美、酒井朋恵 他						
テキスト	配布資料による						
教育目標 ねらい	ネイル（必修科目）で学んだ基礎技術をベースに、より専門的な知識と技術の習得、創造性、感性の向上を目的とする。						
授業概要	基礎技術をベースにネイルアートに必要な知識、技術を学び、作品としていかに表現していくかを学ぶ。						
時間外学習	学んだ理論、技術の復習と練習						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1~2	基礎理論	用具溶剤解説と注意					
3~4	ネイルケア（ウォーターマニキュア）	基礎技術の復習、検定試験内容の説明と注意					
5~6	スカルプチュア	スカルプチュア技術の基礎知識と技術展示					
7~8		スカルプチュア実習					
9~10							
11~12	3Dネイルアート	3Dネイルアートの基礎知識と技術展示					
13~14		エンボス、3D実習					
15~16							
17~18	ネイルペインティング	ネイルペインティング実習					
19~20	エアブラシアート	エアブラシアートの基礎知識と技術展示					
21~22		エアブラシアート実習					
23~24		エアブラシとネイルペイントによるアート					
25~26	ネイルアート	自由制作（学んだ技術を使い、テーマに合わせて作成）					
27~28							
29~30	試験	ネイルアート作品					
到達目標	ネイリストとして、より専門的な知識と技術の習得をするだけでなく、創造性、感性の向上を目的とする。						
評価方法	実技試験、出席状況、授業態度						
履修上の 注 意	特に出席状況に注意、欠席があると単位修得不可となる。 ※トータルビューティーコース希望者は履修することは出来ない。						
参考文献	『美容技術理論 1.2』 日本理容美容教育センター編 2010						

授業科目	ビューティ・ケア I Beauty Care I						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	選択必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	木村 康一、遠藤 圭子 他						
テキスト							
教育目標 ねらい	美容健康産業において、近年多く取り入れられている各種テクニックを修得する						
授業概要	オムニバス方式により、各専門講師による講義・実習が行われる						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション						
3~4	フットケアとリフレクソロジー	美容にフットケアの知識・技術を加える。					
5~6							
7~8							
9~10							
11~12	リカバリーメイク	病気・怪我などによる顔の変化を美容の技術により改善させる方法を修得する。					
13~14							
15~16							
17~18							
19~20							
21~22	美容外科とエステ	美容形成外科の実態と利用法について					
23~24	ブライダルマナー	ブライダルにおける美容師の役割の基本を学ぶ。(和・洋)					
25~26							
27~28							
29~30	まとめ						
到達目標	各種テクニックの基礎的知識と技術を修得する						
評価方法							
履修上の 注 意	※エステ・ネイリストコース希望者は履修することは出来ない。						
参考文献							

授業科目	ビューティ・ケアⅡ Beauty CareⅡ						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	選択必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	木村 康一、遠藤 圭子 他						
テキスト							
教育目標 ねらい	美容健康産業において、近年多く取り入れられている各種テクニックの基礎的知識と技術を修得する						
授業概要	オムニバス方式により、各専門講師による講義・実習が行われる						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	各種代替医療と美容	代替医療の現状					
3~4	柔道整復と美容	代替医療（柔道整復）の技術を美容に活用する方法を学ぶ					
5~6							
7~8	フェイシャル・ヨーガ	代替医療（フェイシャル・ヨーガ）の技術を美容に活用する方法を学ぶ					
9~10							
11~12	ハリ・漢方と美容	代替医療（ハリ・漢方）の技術を美容に活用する方法を学ぶ					
13~14							
15~16							
17~18	テーピングと美容	代替医療（テーピング）の技術を美容に活用する方法を学ぶ					
19~20							
21~22							
23~24	アロマセラピーと美容	アロマセラピーの応用技術として美容への活用法を学ぶ					
25~26							
27~28							
29~30							
到達目標	美容健康分野で多く用いられている代替医療の基礎的知識と技術を修得する。						
評価方法							
履修上の 注 意	※エステ・ネイリストコース希望者は履修することができない。						
参考文献							

授業科目	メイクアップⅡ Make-upⅡ						
開講年次	2年後期	単位	2単位	必選	選択必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	ティミー西村、時田 真澄 他						
テキスト	『メイクアップⅡ』 公文裕子 著						
教育目標 ねらい	メイクアップⅠで学んだ基礎知識をベースにし、ヘアメイクアップアーティストに必要な必要な気配り、心構えを育み、ショーやステージ等の現場に即した実践的なメイクアップを学ぶ。応用編としてTPOに応じたより高度なメイクアップテクニックを研究練磨する。						
授業概要	モードメイクアップ・シアトリカルメイクアップ・ステージメイクアップ・ブライダルメイクアップ他、各自の感性と創造性を生かした作品研究をし、あらゆる場面や個性に対応出来る技術と共に人間性やマナーも習得する。						
時間外学習	実習授業でのメイクアップ作品をデッサンし、作品写真を添付し提出する。 9月中旬に、配布された化粧品を試し、正しい使用法を理解する。 ファッション誌に目をとおしトレンドを把握する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2 3~4	ファッションとメイクアップ	ファッションの色による変化や対比効果を研究する。					演習・実習
5~6 7~8	顔の立体研究①	個人個人の顔立ちの違いを研究する。 顔のバランス・骨格・面取り					講義・演習・実習
9~10 11~12	顔の立体研究②	個人個人の顔立ち及び肌色の違いを研究する。 光りと影・肌色研究					講義・演習・実習
13~14 15~16	ステージメイクアップ	役柄によるステージメイクアップを研究する。					講義・演習・実習
17~18 19~20	エイジメイクアップ	高齢者の顔を研究する					講義・演習・実習
21~22 23~24	ブライダルメイクアップ (和装)	和装花嫁のメイクアップを研究する。					講義・演習・実習
25~26 27~28	ブライダルメイクアップ (洋装)	洋装花嫁のメイクアップを研究する。					講義・演習・実習
29~30 31~32	モードメイクアップ①	1930年代のメイクアップを研究する。					講義・実習
33~34 35~36	モードメイクアップ②	1950年代のメイクアップを研究する					講義・実習
37~38 39~40	モードメイクアップ③	1960年代メイクアップを研究する					講義・実習
41~42 43~44	特殊効果	火傷、切り傷、ケロイド等、特殊な撮影に使用するメイクアップを研究する。					講義・演習・実習
45~46 47~48	モードメイクアップ④	現代のモードメイクアップ・ブロンズ肌のメイクアップ					講義・演習・実習
49~50 51~52	メイクアップ作品撮影の練習	ヘア・メイクアップ・ファッションのトータル作品製作の練習					実習
53~54 55~56	メイクアップ作品撮影	ヘア・メイクアップ・ファッションのトータル作品製作と撮影					実習
57~58 59~60	メイクアップ作品撮影	ヘア・メイクアップ・ファッションのトータル作品製作と撮影					実習
到達目標	メイクアップをくり返し学ぶことにより、顔に対する見方が明確になり、様々な個性に対応でき、幅広くTPOに応じたテクニック・創造性や感性を作品を通して学ぶ。						
評価方法	1.出席評価 2.実技テスト 3.作品提出 4.筆記試験 5.人物評価 (授業態度を含む)						
履修上の 注 意	欠席が多いと不可 ※エステ・ネイリストコースの希望者は履修することができない。						
参考文献							

授業科目	アロマテラピー Aromatherapy						
開講年次	2年前期	単位	2単位	必選	選択必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	竹内 悦子						
テキスト	『アロマテラピー検定テキスト2級』鳥居鎮夫他 監修(社)アロマ環境協会 2008年改訂版						
教育目標 ねらい	アロマテラピーとは『芳香療法』と訳される自然療法です。現在、アロマテラピーは美容・医療・福祉など様々な分野に広がりを見せています。正しい知識を持って日常生活にアロマテラピーを取り入れられるよう、アロマテラピーの基礎を学びます。						
授業概要	アロマテラピーの概論、エッセンシャルオイル(精油)の製造方法や使用上の注意、エッセンシャルオイルの利用方法、化粧品作製、ハンドトリートメント体験、検定試験対策						
時間外学習	自分なりのアロマテラピーの活用法を考える。授業内で発表してもらいます。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	アロマテラピー概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アロマテラピーとは</li> <li>・エッセンシャルオイルとは</li> <li>・精油のプロフィール① イランイラン・オレンジスイート</li> </ul>					
3~4	アロマテラピーの活用法Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アロマテラピーの利用法</li> <li>・ルームスプレー作製</li> <li>・精油のプロフィール② ジュニパーベリー・ゼラニウム</li> </ul>					
5~6	アロマテラピーの活用法Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アロマテラピーの注意事項</li> <li>・精油のプロフィール③ ティートリー・ペパーミント</li> </ul>					
7~8	精油各論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エッセンシャルオイルの抽出法</li> <li>・精油のプロフィール④ ユーカリ・ラベンダー</li> </ul>					
9~10	アロマテラピーの歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アロマテラピーの歴史</li> </ul>					
11~12	アロマテラピーのメカニズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香りの体内吸収経路</li> <li>・精油のプロフィール⑤ レモン・ローズマリー</li> </ul>					
13~14	精油各論Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精油の薬理作用</li> <li>・精油のプロフィール⑥ カモミールローマン・クラリセージ</li> </ul>					
15~16	基材論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アロマテラピーにおける基材の種類</li> </ul>					
17~18	アロマテラピーの活用法Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アロマテラピーのホームケア</li> <li>・トリートメントオイル作製</li> <li>・ハンドトリートメント体験</li> </ul>					
19~20	自然療法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アロマテラピー以外の自然療法</li> <li>・精油のプロフィール⑧ スイートマージョラム・ネロリ</li> </ul>					
21~22	ケーススタディ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神的・肉体的症状に対するアプローチ</li> <li>・化粧水作製</li> <li>・精油のプロフィール⑦ グレープフルーツ・サンダルウッド</li> </ul>					
23~24	アロマテラピーと健康Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康とストレス</li> <li>・精油のプロフィール⑨ フランキンセンス・ベルガモット</li> </ul>					
25~26	アロマテラピーと健康Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性のライフスタイル</li> <li>・アロマテラピーと環境</li> <li>・課題発表①</li> <li>・精油のプロフィール⑩ レモングラス・ローズオットー</li> </ul>					
27~28	アロマテラピーの関連法規	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アロマテラピーの関連法規</li> <li>・検定試験対策</li> <li>・課題発表②</li> </ul>					
29~30	期末テスト						
到達目標	アロマテラピーの基礎を身につけ、美容や健康維持の為に日常生活において活用できることを目標に。アロマテラピー検定1級に合格できるレベルを目指す						
評価方法	1.出席状況(遅刻3回で欠席1回とみなします) 2.期末試験 3.課題発表 以上の総合で判断します						
履修上の 注 意	定員を20名とする 受講希望者が定員数を超えた場合は選考を行う						
参考文献							

授業科目	パーソナルカラー Personal Color						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選択必修	授業形態	演習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	高橋 映子、山本 絵理						
テキスト							
教育目標 ねらい	その人に似合う色を診断し、アドバイスするパーソナルカラーリストとして、カラー診断に必要な理論を学び、アドバイスするための資料を作成する。また、実際に実技でカラー診断をして似合うファッションメイクやメイクのアドバイスができるように学ぶ						
授業概要	肌の色、眼の色、髪の色を4パターンに分けたフォーシーズンパーソナルカラーを、配色カードや雑誌の切り抜きなどによって理解を深め、ドレープを使って実際にカラー診断の手順と診断方法を学び、その人に似合う色のアドバイスができるように学習する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	パーソナルカラーって何？ スキンチェック	パーソナルカラーの重要性／肌を2通りに分ける（クール、ウォーム）					
3~4	キャラクターの話 主観色の話	キャラクターと主観色から見た4パターン（フォーシーズン）					
5~6	パーソナルカラーの分け方	フォーシーズンカラーそれぞれのイメージ					
7~8	コスメティックス、 ファッションの切り抜き作成	ファッション等、切り抜きの集め方、ボードに作成の仕方					
9~10	ビジネスツールの説明 パーソナルカラー診断の手順	ドレープ、スウォッチの説明／カルテの書き方／プレゼンしながら説明					
11~12	ゴールド&シルバードレープの見分け方 スキンチェック、キャラクターチェック、素顔の見分け方	実際にチェックしてみる					
13~14	主観色の見分け方 一応の判断のつけ方とボードのアドバイスの方法	主観色をチェックし、今までのチェックから仮の判断をつける／アドバイスの仕方					
15~16	ドレーピングの実習	実際にドレープを使って、ドレープのきり方の練習					
17~18	ドレーピングの実習	実際にドレープを使って、ドレープのきり方の練習					
19~20	フォーシーズンカラーメイクアップ メイクデザイン画作成	コスメティックスの色の分け方／フォーシーズン別メイクデザイン画作成					
21~22	メイク実習	パーソナルカラーでメイクをしてみる					
23~24	メイク実習 写真の撮り方	パーソナルカラーでメイクをしてみる／写真の撮り方					
25~26	パーソナルカラー診断実習	実際にパーソナルカラー診断をしてみる（カルテ記入～最後まで）					
27~28	診断後のアフターフォローについて	カルテのファイリング、アドバイスシートの作成、ボードやスウォッチを使っているアドバイス					
29~30	カラーリストとして 認定テスト	カラーリストとしての心構えとビジネス展開／実技テスト					
到達目標	パーソナルカラーを理解し、パーソナルカラー診断ができるようになる。						
評価方法	出席状況、提出物、実技チェックの総合評価						
履修上の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山野認定パーソナルカラーアナリストの資格を取得するには、別途、ドレープ等の購入費が必要となります。</li> <li>・色彩学の単位を優秀な成績で取得すること。</li> </ul> ※エステ・ネイリストコース希望者は履修することができない。						
参考文献	Infinity-colors のテキスト参照						

授業科目	サロン英語コミュニケーション Salon English Communication						
開講年次	1年通年	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	John Parker						
テキスト	English For Hairstylists						
教育目標 ね ら い	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer						
授業概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out various role-play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.						
時間外学習	After class work: Study the vocabulary, pronunciation and cultural link section in each unit.						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1	Introduction / Motivation worksheet	Group discussion / Motivation activity					
2	Unit 1: Greetings and Introducing yourself	Unit Introduction / Drill and practice vocabulary and target language					
3	Unit 2: Names / Addresses / Phone numbers	Unit Introduction / Drill and practice vocabulary and target language					
4	Pair Presentation (Role-play) Practice	Create original dialog in pairs					
5	Pair Presentation (Role-play) #1	In-salon pair presentation - <b>Customer information</b>					
6	Business hours and appointments	Unit Introduction / Drill and practice vocabulary and target language					
7	Business hours and appointments	Pair practice					
8	Pair Presentation (Role-play) Practice	Create original dialog in pairs					
9	Pair Presentation (Role-play) Practice	Create original dialog in pairs					
10	Pair Presentation (Role-play) #2	Telephone pair presentation - <b>Taking appointments</b>					
11	The Learning Channel Special Documentary	Hairdressing episode / Prive' Salon in Beverly Hills					
12	Hair condition	Drill and practice vocabulary and target language / Hair condition group activity					
13	Complimenting / Small Talk	Pair and group practice					
14	What do you want to say #1	Preparation for Study abroad program in Paris and London					
15	What do you want to say #2	Preparation for Study abroad program in Paris and London					
16	Asking haircut questions	Drill and practice vocabulary and target language dealing with haircutting					
17	Asking haircut questions	Pair practice - haircutting					
18	Pair Presentation (Role-play) Practice	Create original dialog in pairs					
19	Pair Presentation (Role-play) Practice	Create original dialog in pairs					
20	Pair Presentation (Role-play) #3	In-salon pair presentation - <b>Haircutting</b>					
21	Perming	Drill and practice vocabulary and target language pertaining to perming					
22	Perming	Pair practice - perming					
23	Coloring	Drill and practice vocabulary and target language pertaining to hair coloring					
24	Coloring	Pair practice - hair coloring					

25	Final presentation (role-play) introduction	
26	Final presentation (role-play) practice	
27	Final presentation (role-play) practice	
28	Final presentation (role-play) practice	
29	Final pair presentation (role-play)	<b>Telephone</b> conversation pair presentation (role-play)
30	Final pair presentation (role-play)	<b>In-salon</b> and pair presentation (role-play)
到達目標	外国人との英会話に慣れ、卒業後のキャリアに英会話力を生かせるようになること。	
評価方法	1. ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲	
履修上の 注 意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。	
参考文献		

授業科目	英語コミュニケーション（上級） English Communication (Advanced)						
開講年次	2年通年	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	Jhon Parker						
テキスト	English First Hand I w/CD *Longman Asia ELT						
教育目標 ね ら い	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way.						
授業概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will hold class discussions, we will act out various role-play or real language situations and students will be asked periodically to present their ideas and opinions on various subjects to the class in the form of a presentation.						
時間外学習	After class work: Study the vocabulary, pronunciation and cultural link section in each unit.						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1	Introduction, Orientation	Introduction of class goals and objectives					
2	Positive Communication Practice						
3	Find someone who.../Are you? /Do you? / Can you?	Target language group practice / Pair practice using original dialogs					
4	Meeting new people/Ask for/give personal information / Talking about yourself	Target language group practice / Pair practice using original dialogs					
5	Meeting new people/Ask for/give personal information / Talking about yourself	Target language group practice / Pair practice using original dialogs					
6	Tell me what happened/Talking about past activities	Target language group practice / Pair practice using original dialogs					
7	Tell me what happened/Talking about past activities	Target language group practice / Pair practice using original dialogs					
8	How was it? /Talking about emotions /Ask for and give opinions/Agree and disagree	Target language group practice / Pair practice using original dialogs					
9	How was it? /Talking about emotions /Ask for and give opinions/Agree and disagree	Target language group practice / Pair practice using original dialogs					
10	Create an original “ Comedy Production” of a day in the life of a hair salon	Create an original script through group discussions in class.					
11	Script writing	Create original script through group discussions in class.					
12	Script writing	Create an original script through group discussions in class.					
13	Script writing	Create original script through group discussions in class.					
14	Script writing	Create an original script through group discussions in class.					
15	Script writing	Create an original script through group discussions in class.					
16	Script writing	Create an original script through group discussions in class.					
17	Script writing	Create an original script through group discussions in class.					
18	Rehearsal						
19	Rehearsal						
20	Rehearsal						

21	Rehearsal	
22	Rehearsal	
23	Rehearsal	
24	Rehearsal	
25	Christmas Party!	Each member of the class will be asked to bring something to eat. We will sing Christmas carols and <b>Perform the original class production.</b>
26	Open Week	
27	Open Week	
28	The Beauty Business - Geno Stampora	Listen to Geno Stampora audio presentation followed by group discussions
29	Open Discussion - goals and Dreams	Group discussions - talking about goals and dreams
30	Open Discussion - Career goals	Group discussions - talking about goals and dreams
<b>到達目標</b>		
<b>評価方法</b>	Evaluation - There are no paper tests in this class. Your performance will be evaluated on a combination of your effort in class, communication skills and attendance. We will perform several in-class presentations that will also be used to evaluate your performance.	
<b>履修上の注意</b>	Notes - All students must bring a positive and motivated attitude to class and possess a genuine desire to improve their English communication skills.	
<b>参考文献</b>		

授業科目	健康の管理 Health Promotion						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	講 義
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウエルネスデザイナー認定資格						
担当者	木村 康一						
テキスト	『学生のための健康管理学』 木村康一, 近藤陽一 他著 南山堂 2007						
教育目標 ねらい	ライフスタイルや人間のライフサイクルに応じた健康の管理のあり方や方法について、基礎的な知識を習得するとともに、自らの健康の管理が実践できる態度をはぐくむ。						
授業概要	ライフスタイルに基づく生活習慣と健康の管理、ライフスタイルに基づく健康の管理のあり方について解説するとともに、自分自身の生活を振り返るきっかけを提供する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1	オリエンテーション	講義の進め方、心構え等					
2~3	健康の捉え方	健康の定義、ヘルスプロモーション					
4~5	健康管理の歴史	健康管理の歴史の変遷					
6~7	生活環境と健康	健康と関係の深い生活環境					
8~9	疾病の予防	各疾病の予防策					
10~11	健康と栄養	栄養素の基礎と摂取					
12~13	健康と休養	睡眠、リラクゼーションと健康のかかわり					
14~15	健康と運動	運動の果たす役割と健康のかかわり					
16~17	健康と喫煙	喫煙による健康への害					
18~19	健康と飲酒	飲酒による健康への害					
20~21	健康と肥満	肥満の分類と予防					
22~23	母子保健	母子保健における健康の管理					
24~25	学校保健	学校保健における健康の管理					
26~27	産業保健	産業保健における健康の管理					
28~29	老人保健	老人保健における健康の管理					
30	テスト						
到達目標	健康の管理に関する概要を理解し、自ら実践できる態度を身につける。						
評価方法	1. 出席状況 2. 期末筆記試験						
履修上の 注 意							
参考文献							

授業科目	フィットネス & スポーツ Fitness and Sports						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウエルネスデザイナー認定資格						
担当者	早川 洋子						
テキスト	プリント						
教育目標 ねらい	<p>1. 正しい姿勢や歩き方は、その人の美しさを一層引き立てると同時に良い印象を与える。また腰痛予防など障害の予防にも役立ち、すべてのエクササイズの基本でもあるため、まずそれを習得する。</p> <p>2. エアロビクス、マシン、ウエルネスプログラムなどの体験を通して健康（ウエイトコントロール、障害の予防なども含む）を維持増進するためのエクササイズを学ぶ。</p> <p>3. 球技系の運動やレクリエーションスポーツでは各個人の技術的なレベルアップをはかること。また、実施種目についての理解を深めると同時に協調性、責任感、さらに自主的、積極的な行動や態度が身につくよう努力する。</p> <p>4. ウエルネスプログラムの体験。</p> <p>5. コンディショニングにより、しなやかで強い身体づくりをし、「健康美」を目指す。</p> <p>6. 運動を通してスポーツマンシップやマナー・ルールの習得を目指す。</p>						
授業概要	様々なフィットネスとスポーツ種目をとおして健康のために安全かつ効果的なエクササイズの仕方を体得する。またウエルネスプログラムによりライフプランニングや将来の夢にむけて（近い目標としては就職活動）素敵な自分になるための第一歩である「アウエアネス：気づき」の方法を身につける						
時間外学習	家でも出来る運動やストレッチなどは、日常的に実践してください。 特に、姿勢・ウォーキングは、常に鏡を見て「美しく見えるかどうか」チェックしてください。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション アライメント	授業内容や運動を行う上での基本的な考え方、留意点を説明する。 正しく美しい姿勢、腰痛予防のための姿勢などの学習。					
3~4	ウォーキング	正しいウォーキングの仕方					
5~6	アライメント&ウォーキング	美しく見えるウォーキング					
7~8	ドッチボール	ボール慣れする、ゲーム					
9~10	ソフトバレーボール	パス、サーブ、ゲーム					
11~12	バレーボール	パス、サーブ、ゲーム					
13~14	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート					
15~16	ユニホッケー	スティックの操作に慣れる ゲーム					
17~18	卓球、縄とび 他	ゲーム 縄・・・一人飛び、大縄、ダブルダッチ 他					
19~20	体ほぐし、バドミントン	サーブ、パス、ゲーム					
21~22	脂肪燃焼に効果的な運動強度 1	自転車、トレッドミル、ステアクライマーなどのエクササイズを用いて、各個人の安全で脂肪燃焼に効果的な運動強度を測定する					
23~24	脂肪燃焼に効果的な運動強度 2	自転車、トレッドミル、ステアクライマーなどのエクササイズを用いて、各個人の安全で脂肪燃焼に効果的な運動強度でエクササイズを行う。					
25~26	グループエクササイズ 1 青竹エクササイズ	下肢の簡単なマッサージの後、リフレクソロジーとエアロビックダンスのコンビネーションした軽いエクササイズを行い、下肢のむくみ解消や疲労回復などに効果的なプログラムを行う。（ビギナー（基礎を学ぶ）クラス1）同上（ビギナークラス1）					
27~28	グループエクササイズ 2 ベンチステッピング	1980年代に、「下肢への衝撃が少なく、エネルギー消費が高い」というキャッチフレーズで日本に登場したベンチステッピングを扱う。正しいステップの踏み方や台高の選択、各個人に合った運動強度に調節する方法などを体得する（ビギナー（基礎を学ぶ）クラス1）。					
29~30	総まとめ	美しい姿勢・ウォーキング・座り方など就職活動に役立つ、立ち振る舞いをおさらいし、自己評価する					

到達目標	フィットネス・ウェルネスプログラムの体験。現在の自分の状態に気づき、修正していく。自己管理しながら運動ができる。
評価方法	出席率 60%、簡単なレポート 40%、授業態度 + $\alpha$ の総合評価
履修上の注意	<p>開講学年により、シラバスどおりには進まない可能性がある。          ウェルネスデザイナー必修科目。          授業の秩序を乱すものは、単位の認定を行わないことがあるので注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*特に授業中の化粧、私語、無断外出は厳禁</li> <li>*定員を 20 名とし、履修希望者が多数の場合は選考をおこなう。</li> <li>*トレーニング・ウェア、ソックス、シューズを着用の事</li> <li>*筆記用具の用意</li> <li>*スポーツが苦手でも、成績には関係ありません。スポーツが苦手な人も大歓迎です！</li> </ul>
参考文献	

授業科目	カウンセリング I Counseling I						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウエルネスデザイナー認定資格						
担当者	高島 直子・五十嵐 靖博						
テキスト	『美容師のためのカウンセリング』 山野美容心理学研究会 著 ナカニシヤ出版 2009						
教育目標 ねらい	美容のプロフェッショナルとして、好ましい対人コミュニケーションスキルを習得することを目標とする。そのためには心理テストやワークを通じて、自己を正しく理解する必要がある。自分の考え方や行動パターンを客観的に把握することによって、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるようになる。カウンセリング理論にもとづいて美容の場面で適用できる対人コミュニケーションスキルを習得する。さらに、日常生活から仕事における様々な場面設定をしたロールプレイングを行うことによって、カウンセリングを体験し、実践へとつなげる。						
授業概要	ビューティスタッフのためのカウンセリングとは何か？その基礎から実践までを説明する。ワークや心理テストを通して、自己理解と他者理解を試みる。美容とカウンセリングとの関係について考え、美容のプロフェッショナルとして、クライアントやスタッフとの好ましい人間関係を形成するために役に立つ対人コミュニケーションスキルを習得する。						
時間外学習	カウンセリングの技法を習得するために復習を十分に行うこと。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	授業の進め方。美容に活かすカウンセリング					
3~4	ビューティスタッフの自己理解(1)	自己理解とは？自己理解の意義(20 答法)					
5~6	ビューティスタッフの自己理解(2)	心理テストを通じて自己理解を試みる(自己肯定意識尺度)					
7~8	美容とカウンセリング(1)	カウンセリングの定義と理論、美容とカウンセリングの関係、カウンセリングのレベル					
9~10	美容とカウンセリング(2)	美容室でクライアントを理解するには？					
11~12	カウンセリングの理論	自己理論と来談者中心療法					
13~14	カウンセリングの技法(1)	美容室でクライアントとかかわる：かかわり行動(理解およびワーク)					
15~16	カウンセリングの技法(2)	クライアントに質問する：質問技法(理解およびワーク)					
17~18	カウンセリングの技法(3)	美容のプロとして応える：応答技法1(理解およびワーク)					
19~20	カウンセリングの技法(4)	美容のプロとして応える：応答技法2(理解およびワーク)					
21~22	カウンセリングの技法(5)	カウンセリング技法の紙上練習					
23~24	ロールプレイング	美容室におけるカウンセリングの実際：ロールプレイング					
25~26	カウンセリングの事例	事例を通して、様々なカウンセリングの理論を理解する					
27~28	心理療法の体験	コラージュ療法					
29~30	まとめ	授業の振り返り					
到達目標	1. 自己を理解し、他者とのコミュニケーションに活かす。 2. 美容のプロフェッショナルとして、好ましい対人コミュニケーションスキルを習得し、実践する。						
評価方法	1. 出席状況(規定時間数以上の出席が原則) 2. 授業中の態度(ワークへの参加態度など) 3. ワークの課題提出(内容と提出状況) 4. 小テスト 5. 期末試験						
履修上の 注 意	1. 出席状況に注意すること。特に受講態度を重視する。 2. ワークへの意欲的な参加を求める。						
参考文献	『カウンセリング技法入門』 玉瀬浩司 著 教育出版 1998 『心理学マニュアル面接法』 保坂亨・中澤潤・小野木裕明 編著 北大路書房 2000 『カウンセリングへの招待』 滝本孝雄 著 サイエンス社 2006 『図解 自分の気持ちをきちんと伝える技術』 平木典子 著 PHP 研究所 2007 『健康心理学がとってもよくわかる本』 野口京子 著 東京書店 2008						

授業科目	カウンセリングⅡ CounselingⅡ						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格、日本エステティック協会認定エステティシャン						
担当者	高島 直子・五十嵐 靖博						
テキスト	『美容師のためのカウンセリング』 山野美容心理学研究会 著 ナカニシヤ出版 2009						
教育目標 ねらい	美容のプロフェッショナルとして、仕事上あるいは職場内のトラブルや顧客からの相談にも対応できる望ましい対人コミュニケーションスキルを習得することを目標とする。そのためにまず自己理解を深め、自分の考え方や対人行動パターンの特徴を把握したうえで、対人職特有のストレス場面でのふさわしい対応方法を学ぶ。また自身の健康と顧客へのアドバイスを含め、望ましいストレス対処と健康管理のあり方を考える。心身ともに健康であることが美しさの基本であることを自覚し、実践できるようにする。						
授業概要	「カウンセリングⅠ」で習得した内容をふまえ、ワークや心理テストを通してビューティスタッフとしての自己理解を深め、ストレスフルな場面にも対処できるコミュニケーションスキルを習得する。美容と健康の関係や望ましいストレス対処法について考え、実践できるようにする。						
時間外学習	カウンセリングのスキルを習得するために、十分に復習を行うこと。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	授業の概要説明：ビューティスタッフのためのカウンセリング					
3~4	「カウンセリングⅠ」の復習	美容に活かすカウンセリング技法のVTRと討論					
5~6	ビューティスタッフの自己理解(1)	交流分析：エゴグラムと自我構造分析					
7~8	ビューティスタッフの自己理解(2)	交流分析：パターン分類と交流分析					
9~10	美容のための対人関係(1)	社会的スキルとは？ビューティスタッフが必要とする社会的スキル					
11~12	美容のための対人関係(2)	考え方を変える——認知行動療法					
13~14	美容のための対人関係(3)	アサーショントレーニング：お客様に伝えるために					
15~16	事例検討	ビューティスタッフが経験した事例を通して、対人コミュニケーションのあり方を検討する。					
17~18	ロールプレイング	対人コミュニケーション(特にトラブル対応)のまとめ					
19~20	美容と健康心理学(1)	望ましい生活習慣(栄養と食行動)					
21~22	美容と健康心理学(2)	望ましい生活習慣(休養と運動、他)					
23~24	美容と健康心理学(3)	美容と健康のための行動プログラム作り					
25~26	ロールプレイング	美容と健康に関するカウンセリング					
27~28	心理療法の体験	自律訓練法					
29~30	まとめ	授業の振り返り					
到達目標	1. ビューティスタッフとしての自己理解を深め、ストレスフルな場面に対処できるコミュニケーションスキルを習得する。 2. ビューティスタッフにふさわしい健康管理のあり方を習得し、実践する。						
評価方法	1. 出席状況(規定時間数以上の出席が原則) 2. 授業中の態度(ワークへの参加態度など) 3. ワークの課題提出(内容と提出状況) 4. 小テスト 5. 期末試験						
履修上の 注 意	1. 本科目を履修するためには、カウンセリングⅠを受講し単位を取得していなければならない。 2. 出席状況に注意すること。特に受講態度を重視する。 3. ワークへの意欲的な参加を必要とする。						
参考文献	『カウンセリング技法入門』 玉瀬浩司 著 教育出版 1998 『心理学マニュアル面接法』 保坂亨・中澤潤・小野木裕明 編著 北大路書房 2000 『カウンセリングへの招待』 滝本孝雄 著 サイエンス社 2006 『図解 自分の気持ちをきちんと伝える技術』 平木典子 著 PHP 研究所 2007						

授業科目	美容技術指導法 Teaching Methods for Hairstyling						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	河野 誠二						
テキスト							
教育目標 ねらい	美容技術は手の技術である。「手わざ」を生かすために科学的な技術分析を加えて“わかち・伝え合う”手法を学ぶ。 学生諸君が美容室に勤務して、やがて後輩を指導する際に役立つ授業にする。						
授業概要	技術指導の作成法、教え方、評価方法の実際と、それらのノウハウを学習する。 一方美容は“接客に始まり接客に終わる”と考えられている。“指導する立場”で「接遇指導法」についても職業教育の一環として探求する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	Introduction 美容業務とその指導	講義の進め方、美容というサービスについての基本概念について					
3~4	良い接遇サービスとは何か	接遇とは何か……良い接遇・悪い接遇について					
5~6	サービスで大事なマインドのとらえ方	顧客の満足度を高める接遇の重要性と意義について					
7~8	接遇の機能と方法	美容室の仕事における接遇の位置と心がけについて					
9~10	トークとアクションの仕方	良い接遇に相当するトークとアクションの基本事項について					
11~12	美容の仕事进行分析する（教材研究の仕方）	美容室の仕事の流れを分析し、訓練用技能分析表の作成について					
13~14	指導の原理（指導の準備と指導案）	実習指導の原則と指導案の構成について					
15~16	指導案と指導の実際	指導のテクニックと指導上で起こる問題と解決について					
17~18	技術・技能の伝達伝承の基本的問題と戦略的考え方	「手わざ」は、身体の中にめり込んだ知識、技術といえる					
19~20	熟練技術・技能の伝達伝承の方法論	技術・技能を伝達し、伝承するには方法論があり、その方法について					
21~22	美容実習（技術）担当者に求められる資質（能力）	美容技術の担当者の資質とその成長法について					
23~24	学力（＝技術力）中心の能力評価体系	技術指導には評価がとれない、その評価法の実際について					
25~26	実践的な技術指導技法	実際にどのような指導するのか……その方法について					
27~28	技術教授法	美容室など指導の現場を再現し、実践的な指導について					
29~30	指導の発表と評価・まとめ	評価の仕方、改善へのチェックポイントについて					
到達目標	「技術・技能の伝達・伝承」の方法を、ひらめきや感性、創造性といった潜在的能力を生かした技術指導の作成法、教え方、それらのノウハウを身につけることを目標とする。						
評価方法	日常の出席状況、授業への参加度、発表力などで評価する。期末にテストすることもある。						
履修上の 注 意	学生でありながら、この授業では職業人としての自覚をもって積極的に授業参加すること ※ヘア・メイクアップコース希望者は履修することができない。						
参考文献	随時、プリントを配布する。 指定参考図書 『職場でできる技術・技能伝承マニュアル』 森和夫 著 日本プラントメンテナンス協会 2005 『社員教育研修』 岡村和彦・白井澄 著 総合法令出版 1988						

授業科目	美容のための科学 Beauty Science						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	講 義
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	内堀 毅、鎌田 正純						
テキスト	なし（必要に応じてプリントを用意する）						
教育目標 ね ら い	化粧品を扱い、人を美しくすることは美容師の職業範囲である。お客様に様々な美容サービスに対して安心を与えるために、化粧品及び美容に使用する各種機器の知識や知見は不可欠である。そこで、本授業では、化粧品及び美容に使用する各種機器に関する様々な知識を深めることを目標とする。本目標を達成するために、化粧品化学の授業では扱うことのできなかつた化粧品の機能などの教授を行うとともに、これからの社会において活用できる先端的な化粧品及び美容機器に関する知識の教授を行う。これらの講義を通じて、美容に関連する製品の研究開発の先端を理解することも目標とする。						
授業概要	本授業は化粧品化学を基盤として、化粧品化学では教授することのできなかつた応用的な部分について講義する。本授業は2部構成とし、前半（1－16回）では化粧品についてより専門的な角度から理解を深めて高度な知識を修得する。後半（17－30回）ではより広義な視点から美容に関する科学について紹介する。 第1回－10回の授業では、皮膚に関する化粧品について教授する。第11回－16回の授業では、美を演出する化粧品について教授する。第17回－20回目の授業では、使用する美容器具および皮膚測定機器について解説する。第21回－28回目の授業では、特許や学術論文などを用いて、最先端の化粧品素材の開発について学ぶ。第29回－30回目の授業では、人間の美容が地球環境に与える影響について教授する。授業内容の理解を確実なものとするために、授業ごとにレポートの提出等を行う。						
時間外学習	予習・準備学習は『物理・化学「化学・化粧品化学」』や『理容・美容保健』にてシラバスに記載事項に関連する内容に関連するページを読み、その分野の基本的な知識や内容の把握に努めること。 復習は、講義内容を振り返るとともに、授業内容に基づく課題を3つ程度考え、それについて自らの言葉でノート等に整理しておくこと。また、実生活に活用されているものについては、自宅等にある製品を手に取り、その応用例を確認すること。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	皮膚と紫外線	紫外線の皮膚への影響について学び、皮膚の光老化、特にシミやシワの発生メカニズムについて理解する。					
3~4	サンスクリーン用化粧品	日焼け防止用の化粧品についての知識を深め、さらに美白用化粧品についても学ぶ。					
5~6	皮膚の保湿メカニズム	皮膚の保湿メカニズムについて理解を深め、化粧品に配合されている様々な保湿剤について学ぶ。					
7~8	清浄用化粧品	皮膚や毛髪を清潔に保つために使用されている化粧品について理解し、その主成分である界面活性剤について詳しく学ぶ。					
9~10	ニキビ・肌荒れ防止用化粧品	ニキビや肌荒れを防止するために用いられる化粧品について学び、その配合成分についても理解する。					
11~12	爪とネイルエナメル	ネイルエナメルの皮膜形成剤をはじめ溶剤や可塑剤などの働きとそれら成分の性質について理解する。					
13~14	香料と芳香用化粧品	香水やオーデコロンに配合される香料について学び、香料の化粧品に果たす役割などについて学ぶ。					
15~16	色材とメイクアップ用化粧品	化粧品に用いられている色材についての理解を深めるとともに、メイクアップ用化粧品に配合されている新しい色材の特徴について学ぶ。					
17~18	皮膚機能の測定法	表皮水分量および水分蒸散量の測定装置を紹介するとともに、拡大スコープを用いた肌理の評価などについて紹介する。					
19~20	イオン導入装置と経皮吸収	化粧品素材の経皮吸収に関する特徴を紹介するとともに、イオン導入装置の原理や機能について紹介する。					
21~22	化粧品素材の開発動向 1	皮膚機能の維持・向上に機能する新規素材について紹介するとともに、フラワーレンを配合したナノ化粧品などについて紹介する。					

23~24	化粧品素材の開発動向 2	新規美白剤の探索に関する評価方法を紹介するとともに、遺伝子機能を利用した美白剤について紹介する。
25~26	化粧品素材の開発動向 3	メイクアップ素材に利用する無機顔料の複合化・形状の工夫について紹介するとともに、メイクアップ化粧品の開発動向を紹介する。
27~28	毛髪科学と毛髪用化粧品	毛髪の構造やキューティクルの状態観察などについて紹介するとともに、毛髪用化粧品の開発動向について紹介する。
29~30	美容と地球環境	美容に使用される様々な物質が地球環境に与える影響について紹介するとともに、人間の美をつくる美容師のあり方を考える。
<b>到達目標</b>	社会に出てから美容分野で活躍するために必要な化粧品についてのより深い知識を身につける。また、美容の基盤となる科学的な知識などについて説明できる力および先端的な情報を収集できる力の修得することを目標とする。	
<b>評価方法</b>	受講態度を含む出席状況、レポートの提出状況およびその内容により判断する。	
<b>履修上の注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中のおしゃべりをはじめ、他人の迷惑となる行為は厳禁とする（場合により退出を命じるとともに、以後、本授業に参加する権利を剥奪します。）。</li> <li>・美容分野で活躍するためには、本授業の後のスキルにおいても利用できるように、講義内容はノート等にきちんとまとめておくことが重要である。</li> </ul>	
<b>参考文献</b>	<p>○皮膚に関する参考文献</p> <p>『美容のための最新皮膚診断マニュアル』 フローレンス・バレット・ヒル 著 池野宏 訳 フレグランスジャーナル社 2006</p> <p>『スキンケアの実際』 田上八朗 ゲスト編集 文光堂 1999</p> <p>『化粧品・外用薬研究者のための皮膚科学』 宮地良樹, 長沼雅子 編著 文光堂 2005</p> <p>『化粧品技術者と医学者のための皮膚科学』 戸田浄 著 文光堂 1990</p> <p>○化粧品に関する参考文献</p> <p>『コスメトロジー入門』 -化粧品の基礎知識- 鈴木守 著 幸書房 1993</p> <p>『化粧品科学』 -理論と実際- 田村健夫・廣田博 著 フレグランスジャーナル社 2001</p> <p>『新化粧品学』 光井武夫 編 南山堂 2001</p> <p>『香料と調香の基礎知識』 中島基貴 編著 産業図書 2000</p> <p>『化粧品科学ガイド』 田上八朗・杉本堅次・能崎章輔・宿崎幸一・神田吉弘 著 フレグランスジャーナル社 2007</p>	

授業科目	美容と色彩 Aesthetics and Color						
開講年次	1年前期	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	栗本 佳典						
テキスト							
教育目標 ね ら い	色彩の基本的な理論を学ぶことによって、色彩表現の基礎を養う。また、色彩検定への対応も行いながら色名や配色、色のイメージなど色彩の知識の幅を広げ、感性を高める。						
授業概要	色は人間の心や行動に様々な影響を与えている。その色のはたす役割や性質を理解し、色鉛筆やポスターカラー、カラーチャートなど、実際に色を使いながら学習する。						
時間外学習	授業で作成したプリントやチャートなどは、きちんと保存し、いつでも復習できるようにしておく。また、身の回りで使用されている色彩を授業内容と照らし合わせ、自分の経験としていく。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	色彩学について	人間の歴史と色彩					
3~4	スペクトルと三原色	色とスペクトルとの関係および色料、色光の三原色					
5~6	補色	混色と補色					
7~8	色名	J I S系統色名と慣用色名からオリジナル色作成へ					
9~10	カラーシステム	マンセルカラーシステムとPCCS（カラーチャート作成）					
11~12	トーン	色彩のトーン（カラーチャート作成）					
13~14	カラーシステムのまとめ	テスト形式でカラーシステムの理解を深める					
15~16	トーン配色	トーンを利用した配色					
17~18	色彩調和と配色	基本的な調和配色法からの配色作成					
19~20	色彩心理とイメージ	色が心身に与える作用とカラーイメージデータ					
21~22	ファッションと色彩1	ファッションとカラーコーディネート					
23~24	ファッションと色彩2						
25~26	ファッションと色彩3						
27~28	まとめ						
29~30	テスト						
到達目標	色彩の基礎理論を身につけ、知識の幅を広げる。 また、自由に色を作成したり、組み合わせたりできる能力を身につける。						
評価方法	出席状況と提出作品、およびテスト						
履修上の 注 意	2年次でパーソナルカラーの授業を受ける予定の学生は、本授業科目を履修することが望ましい。						
参考文献							

授業科目	デッサン Drawing						
開講年次	1 年前期	単位	1 単位	必選	選 択	授業形態	実 技
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	中原 直人						
テキスト							
教育目標 ね ら い	造形活動の基礎となるデッサン力を身につける。具体的には、ものの形を正しく見られる目と正しく表現する力を養う。						
授業概要	基礎デッサンの実習。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	デッサン 1	オリエンテーション					
3~4		メディチ頭像 (木炭)					
5~6							
7~8							
9~10	デッサン 2	胸像 マルス または ヘルメス (木炭)					
11~12							
13~14							
15~16							
17~18	デッサン 3	胸像 ブルータス または 聖ジョルジョ (コンテ)					
19~20							
21~22							
23~24							
25~26	デッサン 4	静物デッサン (木炭、コンテ、鉛筆)					
27~28							
29~30							
到達目標	「ものを見ること」について実感する。						
評価方法	提出物と出席						
履修上の 注 意	白衣着用が望ましい						
参考文献							

授業科目	美容室情報処理実習 Data Processing for Beauty Salons						
開講年次	2年通年	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格、ウエルネスデザイナー認定資格						
担 当 者	久保村 千明						
テキスト	教員が作成した教材をテキストとして配布する。						
教育目標 ね ら い	洗練された社会人として、さらには、情報化社会において一步先を行く美容師になるためには、情報の収集・加工・蓄積とともに、新たな情報の生成・発信についてのより深い見識が求められる。本授業では、このような知見に基づき、書類作成・インターネットを活用することのできる素養と知識とを多角的に身に付けることを目指す。先進的美容師に今後求められるであろう見識と教養も身に付けることを目指す。						
授業概要	高校までに身に付けているであろうコンピュータリテラシーをあらためて復習するところからはじめる。具体的には、タイピング、Wordによる文書作成、Excelによる表計算等の練習から始め、その後、Flashによるアニメーション作品作成を行う。さらには、これらの諸技術を駆使して作成した作品等をインターネットで発信するために、Web ページ作成の基礎、アニメーション付き Web ページの作成を行う。						
時間外学習	予習は特に必要としない。学習した内容を実践しようとする意識を持つことが重要である。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	授業の概要の説明および簡単な文書入力					
3~4	文書作成練習 (No 1)	表を中心とした文書作成					
5~6	文書作成練習 (No 2)	表・挿絵を含む文書作成					
7~8	文書作成練習 (No 3)	図表を含む文書作成					
9~10	表計算練習 (No 1)	数式と簡単な関数を利用した表計算					
11~12	表計算練習 (No 2)	固定アドレスを利用した表計算					
13~14	総合演習 (No 1)	文書・資料作成の総合練習					
15~16	総合演習 (No 2)	文書・資料作成の総合練習					
17~18	アニメーション作成 (No 1)	パラパラマンガの作成					
19~20	アニメーション作成 (No 2)	複雑な軌跡に沿った動きのあるアニメーションの作成					
21~22	アニメーション作成 (No 3)	レイヤーの考え方					
23~24	アニメーション作成 (No 4)	アニメーション作成のまとめ					
25~26	Web ページ作成 (No 1)	トップページを作成する					
27~28	Web ページ作成 (No 2)	画像素材を作成する					
29~30	Web ページ作成 (No 3)	自分の作成したアニメーションを Web ページに貼り付ける					
到達目標	1. 各種ソフトウェアの基本的操作方法がわかる 2. 自分でマルチメディア文書が作成できる 3. アニメーションを Web ページに組み込む方法がわかる						
評価方法	1. 出席点 (これを最重要視する) 2. 授業態度 3. 課題						
履修上の 注 意	事前の基礎知識等は必要としない。ただし、欠席をすると内容によっては落ちこぼれてしまうので、欠席はしないこと。授業中教員が説明をしているときには私語を慎むこと。作業中は友人同士教えあって作業をすること。一人で悩みこまないこと。分からないことは授業中に解決することが、進歩するためのポイントである。						
参考文献	授業中に適宜紹介する。						

授業科目	ゼミナール Seminar						
開講年次	1年通年	単位	1単位	必選	選 択	授業形態	演 習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担 当 者	各担当教員						
テキスト	各ゼミで指示します						
教育目標 ね ら い	グループまたは個人で、特定の分野に関する研究を通じて、プレゼンテーションや表現の実践的な訓練を行い、客観的な視点の形成、論理的な説明力の向上などを旨とする。						
授業概要	グループまたは個人で、自分の興味のある分野について、その分野の専門とする教員の指導のもと、勉強を進めます。このゼミでは、教員や仲間とのディスカッション、資料の調査および報告などを通じて、コミュニケーション力をはじめとする様々な素養を高めていきます。この授業は、キャリア教育とも連携し、社会が求める人材へと導きます。なお、開講される個々のゼミに関する詳細な説明は別途、小冊子にて配付します。						
時間外学習	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。						
到達目標	表現力、プレゼンテーション力をもって、卒業後も社会において活躍することのできる素養を身に付けることを目標とします。そのために、学外における研究発表などに参加することを目標とします。						
評価方法	出席状況、議論（ディスカッション）などへの参加状況、レポート、報告書などから総合的に評価します。						
履修上の 注 意	熱意を持って参加すること						
参考文献	各ゼミで指示します						

授業科目	美道 Bido						
開講年次	1 年前期	単位	1 単位	必選	必修	授業形態	講義
資格対応							
担当者	山野愛子ジェーン、青木 和子、佐藤 美奈子、杉浦 ゆり 他						
テキスト							
教育目標 ねらい	21 世紀の美容師には、高度な技術の実現のみならず、グローバルな感性やその表現力がますます求められてゆく。この授業では、YAMANO の「美道」を学び、その上で美容文化の現在と未来のあり方を様々な角度からアプローチし、美容師としての大切な資質を養う。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義だけにとどまらず、実演や映像を取り入れた授業を通して美容の現場を知る。</li> <li>・課題テーマに即した内容のプレゼンテーションを行い、その課題レポートを提出する。</li> </ul>						
時間外学習	<ホームワーク> 授業時に発表された課題を、次回までにレポートにして必ず持参する。						
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1	イントロダクション	授業の心構え、美容師としての心構え					
2	美道	山野のトータル・ビューティ「美道 5 大原則」の理解					
3	初代山野愛子	山野愛子の美容の歴史を学び、美容師の使命を考える					
4	コミュニケーション・マナー	美容師に求められる大切な資質とは					
5	メイクアップとヘアメイク	ステージ上で効果的なメイクアップとヘアメイクの紹介 他					
6	ブライダル	欧米やアジアの結婚式の紹介					
7	ファッション・ビジネス	ファッション・ビジネスの舞台裏を学ぶ					
8	研究発表	レポート提出					
到達目標	山野の理念である美道 5 大原則を理解し、時代を担う美容師に必要な資質や国際感覚を身につける。						
評価方法	出席及び授業態度、課題、ファイナルレポート等で評価する。						
履修上の 注 意	欠席が総授業の 3 分の 1 を越えた場合は再履修とする。 提出すべきレポートが未提出の場合は再履修の対象となる。						
参考文献	授業に必要であれば提示。						

授業科目	海外研修旅行 Tour of Europe						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	山野愛子ジェーン、ティミー西村						
テキスト	随時プリントを配布する						
教育目標 ねらい	美容芸術を中心とするファッションや美容の国際事情を学ぶことが授業の目的である。その為に適切な指導のもとに現地の状況を現場で体験する。						
授業概要	ファッション・美容・それらの関係施設・美術館・博物館等の見学研修や一流のアーティストによるヘアデザイン、メイク、コスチューム各部門のショーを見学研修する。また自由行動の時間を利用してのパリ、ロンドン最新風俗の観察等を行う、全員参加の必修科目である。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
	説明会 事前準備	海外研修の説明会を行う パスポートの取り方、渡航における注意事項の説明など					
	説明会 事前準備						
	説明会 事前準備						
	東京（成田）発～ロンドン着	空路でロンドンへ					
	ロンドン	ロンドン市内見学、ロンドン・カレッジ・オブ・ファッションにてビューティセラピーセミナー トニー&ガイ ビューティセミナー					
	ロンドン発～パリ着	空路でパリへ					
	パリ	ルーブル美術館見学、クリスマスパーティー（テーブルマナー実習） パリ市内見学、フランク・アボガドリ氏ビューティショー リド・ディナーショー					
	パリ発～東京（成田）着	空路で東京（成田）へ					
到達目標	海外の風俗や習慣、感性を学ぶことによって、国際的に活躍することができる美容師を目指す意識を高めることを目標とする。						
評価方法	説明会の出席、レポートにより評価する。						
履修上の 注 意	日程その他の都合により一部内容が変更する場合もある。 数回開催する説明会に必ず出席すること。 旅行参加中の着物着用を推奨します。						
参考文献	海外研修テキスト等配布する。						

授業科目	特別活動 Special Activities						
開講年次	1・2年通年	単位	1単位	必選	必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	ティミー西村						
テキスト	法定科目教科書、ワークブック等（日本理美容教育センター発行）						
教育目標 ねらい	各種授業ならびに行事によって教育し難い事柄について、特別に授業を設定して学生の修学に役立つことを目的とする。 美容芸術学科の学生に必要な、情操教育を行う。 美容師国家試験に合格するための実力養成を行う。						
授業概要	学生に対し、特に要する事柄がある場合、随時開講する。実施については、学生は常に掲示板等に注意して授業に備えること。 学外の特別講師による講演・授業、あるいは種々の学内行事で情操教育を行う。さらに美容師国家試験の筆記試験に対応する模擬試験、そしてその解説授業などを随時実施する。授業日は、実施予定が決定する毎に掲示等で告知する。従って、常に掲示板等に注意すること。						
時間外学習							
到達目標	大学生あるいは市民としての道徳心を養い、必要なマナーを身につける。 喫煙による健康被害などをよく認識できる能力を養う。また美容師国家試験の筆記試験に、全員が合格できる基礎を養う。						
評価方法	出席や受講態度により評価する。 実施される授業の出席状況や態度、および美容師国家試験の模擬試験成績を総合評価して成績とする。						
履修上の 注意	大学生として、あるいは成人として必要な事柄の指導であるから必ず出席すること。 短大生としての自覚を持ち受講する。 国家試験に合格するために、日常の学習を徹底すること。						
参考文献	その都度プリント等を用意し、配布する。						

授業科目	特別実習 Special Hairstyling Practice						
開講年次	2年後期	単位	1単位	必選	必修	授業形態	実習
資格対応	美容師国家試験受験資格						
担当者	遠藤圭子、趙智順、秋田留美、及川麻衣子、酒井朋恵 他						
テキスト	美容師実技試験実技課題『技術の解説及び図解』 理容師美容師試験研修センター編 2010						
教育目標 ねらい	美容師国家試験合格に向け、試験課題を完成させる。また、美容師として必要な衛生措置に関する知識を深める。						
授業概要	決定した国家試験課題を反復練習し、基礎的技術のレベルアップをはかるとともに、衛生上の取り扱いを徹底し、実践する。						
時間外学習							
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
3~4	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
5~6	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
7~8	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
9~10	国家試験第1課題	レベルチェック (ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング)					
11~12	国家試験第2課題	レベルチェック (ヘアカッティング)					
13~14	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
15~16	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
17~18	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
19~20	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
21~22	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
23~24	国家試験第2課題	ヘアカッティング					
25~26	国家試験第1課題	ワインディング or ローラーカールセッティング or オールウェーブセッティング					
27~28	国家試験第1課題	後期末試験(決定課題)					
29~30	国家試験第2課題	後期末試験 (ヘアカッティング)					
到達目標	美容師国家試験課題を習熟し、技術の向上をはかる。						
評価方法	出席状況 授業態度 レベルチェック 期末試験						
履修上の 注 意	欠席不可						
参考文献							

授業科目	日本語演習 I Japanese Communication I						
開講年次	1 年前期	単位	1 単位	必選	留学生必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	田仲 安則						
テキスト	『大学生のための日本語』 産能短期大学日本語教育研究室編 産能大学出版部 1990						
教育目標 ねらい	大学での勉強や研究を進めていくために必要な日本語の能力を養うことを目的とした授業をする。						
授業概要	情報の集め方、講義の聞き方、答案の書き方、レポートの仕方などと、そのときに必要な日本語の表現を学習する。						
時間外学習	授業内容をよく確認し復習する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	日本語演習の授業、評価などのオリテとプレースメントテスト					
3~4	情報収集の方法 1	印刷物からの情報収集					
5~6	情報収集の方法 2	インタビューによる情報収集とその報告の方法					
7~8	面接の受け方	面接の受け方のスキル					
9~10	ノートの取り方 1	本を読んでノートを取る					
11~12	ノートを取り方 2	講義を聞いてノートを取る					
13~14	答案の書き方	必要な情報をその表現技術					
15~16	ブックレポート 1	ブックレポートのプロセス					
17~18	ブックレポート 2	新聞記事のレポート(1)					
19~20	ブックレポート 3	新聞記事のレポート(2)					
21~22	ブックレポート 4	新聞記事のレポート(3)					
23~24	ブックレポートの発表	文字レポートから口頭表現へ					
25~26	作文を書く 1	テーマと構成を考える					
27~28	作文を書く 2	指定時間内に指定文字の作文を書く					
29~30	総合学習・評価	キャンパスで必要な総合的な日本語能力のまとめ					
到達目標	大学での授業をよりよく理解し、消化・吸収していく十分な日本語能力を身につける						
評価方法	出席点 40% 平常点（毎回の授業の取り組み態度・提出物の精度など）30% 期末試験 30%						
履修上の 注 意	1 回目のプレースメントテストは必ず受験すること						
参考文献	特に指定しない						

授業科目	日本語演習Ⅱ Japanese CommunicationⅡ						
開講年次	1年後期	単位	1単位	必選	留学生必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	田仲 安則						
テキスト	『中・上級者のための速読の日本語』 岡まゆみ 著 The Japan Times 1998 『日本語を学ぶ人たちのために日本語を楽しく読む本・中上級』 小出慶一 著 産能短期大学国際交流センター 1993 授業ではプリントを使用						
教育目標 ねらい	大学生活では教科書を読む、レポートを書くなど速く大量に読むことが要求され、そのための速読の仕方を学ぶ授業を行う。						
授業概要	必要な情報や知識だけ、素早くつかみ取れる能力、普通の日本人に近い自然な読解能力、速く大量に読める能力、予測や推測の力をつけることで読解力を伸ばす、日本語で読むことを楽しめるようになることに重点をおいた授業を行う。						
時間外学習	授業内容をよく確認し復習する。						
授 業 計 画							
回	項 目	内 容					
1~2	オリエンテーション	速読のスキルアップとは何か					
3~4	スキヤニングの技術	情報を取るスキルを磨く					
5~6	スキミングの技術	大意を取るスキルを磨く					
7~8	スキャンとスキムを総合練習	スキヤニングとスキミングを同時に使う技術を磨く					
9~10	必要な情報を取り出す	大量の文字情報の中から必要な情報を効率的に取り出すスキル学習					
11~12	タイトル・トピックス	タイトル・トピックスから内容の予測をして内容全体を把握する					
13~14	次に続く内容の予測	新聞の見出しから、その内容を予測する					
15~16	実践編 1	必要な情報を取り出す					
17~18	実践編 2	正誤問題					
19~20	実践編 3	タイトル・トピックス・主題・内容を考える					
21~22	日本語を楽しく読む 1	ネパールのビール					
23~24	日本語を楽しく読む 2	握手					
25~26	日本語を楽しく読む 3	分相応と分不相応					
27~28	日本語を楽しく読む 4	涙					
29~30	総合評価						
到達目標	大量の文字情報の上手な処理能力を養成し、大学の授業に必要な日本語能力を身につける						
評価方法	出席点 40% 平常点(毎回の授業の学習態度、提出物の制度など) 30% 期末試験 30%						
履修上の 注 意							
参考文献							

授業科目	日本語読解 Japanese Reading Comprehension						
開講年次	2年前期	単位	1単位	必選	留学生必修	授業形態	演習
資格対応							
担当者	木村 康一、趙 智順						
テキスト	プリントと資料の配布						
教育目標 ねらい	山野美容芸術短期大学では、卒業年次に美容師国家試験を受験し、合格できる実力をつけることを教育目標の一つとしており、留学生にもそれは課せられる。 この授業は、美容師国家試験・筆記試験に合格できる実力をつけることをひとつの手段として、日本語の読解力を高めることを狙いとしている。						
授業概要	美容師国家試験・筆記試験科目に合わせて、専門用語の意味を学び、また、試験の様式にそった日本語の微妙な言い回しを学ぶことによって、日本語の読解能力を高める授業とする。						
時間外学習							
<b>授 業 計 画</b>							
回	項 目	内 容					
1	オリエンテーション	美容師国家試験の概要とこの授業の進め方について					
2	関係法規・制度と日本語	関係法規・制度で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
3	公衆衛生・環境衛生	公衆衛生・環境衛生で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
4	感染症	感染症で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
5	衛生管理技術	衛生管理技術で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
6	人体の構造と機能(1)	人体の構造と機能で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
7	人体の構造と機能(2)	人体の構造と機能で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
8	皮膚科学	皮膚科学で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
9	物理	物理で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
10	化学	化学で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
11	化粧品化学	化粧品化学で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
12	美容技術理論	美容技術理論で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
13	美容技術理論	美容技術理論で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
14	美容技術理論	美容技術理論で使われる専門用語と筆記試験に出題される微妙な日本語の表現方法。					
15	試験						
到達目標	美容師国家試験・筆記試験において合格できる程度の日本語読解力を身につける						
評価方法	出席点 20%、期末試験 60%、授業態度 20%の総合評価 特に授業中のお化粧品、私語（お喋り）は厳禁。						
履修上の 注 意							
参考文献							